

## 平成 30 年度研究科アンケートの結果について

### 1. 成果について

(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。

	とてもなった	まあまあなった	あまりならなかった	ほとんどならなかった
平成 30 年度	64(68.8%)	26(28.0%)	1(1.1%)	0(0.0%)
平成 29 年度	68(63.6%)	39(36.4%)	0(0.0%)	0(0.0%)
平成 28 年度	51(50.0%)	46(45.1%)	2(2.0%)	0(0.0%)
平成 27 年度	75(67.0%)	32(28.6%)	1(0.9%)	0(0.0%)
平成 26 年度	63(59.4%)	37(34.9%)	1(0.9%)	0(0.0%)
平成 25 年度	51(44.7%)	58(50.9%)	5(4.4%)	0(0.0%)

(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

	とても	少し	変わらない	あまり	ほとんど
平成 30 年度	42(45.2%)	29(31.2%)	17(18.3%)	3(3.2%)	0(0.0%)
平成 29 年度	44(41.1%)	31(29.0%)	15(14.0%)	11(10.3%)	5(4.7%)
平成 28 年度	38(37.3%)	38(37.3%)	14(13.7%)	6(5.9%)	1(1.0%)
平成 27 年度	49(43.8%)	41(36.6%)	14(12.5%)	6(5.7%)	0(0.0%)
平成 26 年度	47(44.3%)	29(27.4%)	18(17.0%)	3(2.7%)	0(0.0%)
平成 25 年度	43(37.7%)	34(29.8%)	27(23.7%)	6(5.3%)	4(3.5%)

(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

	すごく薦める	やや薦める	どちらとも	あまり薦めない	全く薦めない
平成 30 年度	28(30.1%)	47(50.5%)	12(12.9%)	3(3.2%)	1(1.1%)
平成 29 年度	38(35.5%)	43(40.2%)	20(18.7%)	3(2.8%)	3(2.8%)
平成 28 年度	20(19.6%)	59(57.8%)	14(13.7%)	4(3.9%)	2(2.0%)
平成 27 年度	38(33.9%)	57(50.9%)	13(11.6%)	0(0.0%)	0(0.0%)
平成 26 年度	29(27.4%)	41(38.7%)	25(23.6%)	2(1.9%)	4(3.8%)
平成 25 年度	15(13.2%)	36(31.6%)	43(37.7%)	8(7.0%)	5(4.4%)

※「自分のためになった」「教員になりたい(教員を続けたい)という気持ちが高まった」という質問に対して、「とても」と強く肯定する院生の割合が、これまでで最も大きくなっている。「知人に薦める」という質問に対しても、「とても」は昨年よりやや割合が小さくなっているが、「やや薦める」を併せると約 8 割の院生が肯定的に回答している。

### 2. カリキュラムについて

(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

	期待以上	まあまあ期待通り	少し期待はずれ	全く期待はずれ
平成 30 年度	31(33.3%)	51(54.8%)	9(9.7%)	1(1.1%)
平成 29 年度	35(32.7%)	59(55.1%)	11(10.3%)	2(1.9%)
平成 28 年度	24(23.5%)	62(60.8%)	15(14.7%)	0(0.0%)
平成 27 年度	50(44.6%)	58(51.8%)	4(3.6%)	0(0.0%)
平成 26 年度	28(26.4%)	65(61.3%)	13(12.3%)	0(0.0%)
平成 25 年度	12(10.5%)	72(63.2%)	26(22.8%)	3(2.6%)

(5) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 30 年度	21(22.6%)	49(52.7%)	23(24.7%)	0(0.0%)
平成 29 年度	14(13.1%)	63(58.9%)	27(25.2%)	2(1.9%)
平成 28 年度	12(11.8%)	66(64.7%)	22(21.6%)	1(1.0%)
平成 27 年度	22(19.6%)	75(67.0%)	12(10.7%)	2(1.8%)
平成 26 年度	18(17.0%)	55(51.9%)	31(29.2%)	2(1.9%)
平成 25 年度	5(4.4%)	57(50.0%)	44(38.6%)	7(6.1%)

(6) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 30 年度	20(21.5%)	65(69.9%)	8(8.6%)	0(0.0%)
平成 29 年度	13(12.1%)	86(80.5%)	7(6.5%)	1(0.9%)
平成 28 年度	14(13.7%)	72(70.8%)	14(13.7%)	1(1.0%)
平成 27 年度	25(22.3%)	80(71.4%)	7(6.3%)	0(0.0%)
平成 26 年度	30(28.3%)	64(60.4%)	11(10.4%)	1(0.9%)
平成 25 年度	10(8.8%)	70(61.4%)	32(28.1%)	1(0.9%)

(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 30 年度	28(30.1%)	53(57.0%)	8(8.6%)	0(0.0%)
平成 29 年度	33(30.8%)	66(61.7%)	6(5.6%)	0(0.0%)
平成 28 年度	26(25.5%)	65(63.7%)	3(2.9%)	0(0.0%)
平成 27 年度	48(42.9%)	62(55.4%)	1(0.9%)	0(0.0%)
平成 26 年度	34(32.1%)	66(62.3%)	2(1.9%)	0(0.0%)
平成 25 年度	26(22.8%)	75(65.8%)	12(10.5%)	0(0.0%)

(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。

	多かった	ちょうどよかった	少なかった
平成 30 年度	2(2.2%)	61(65.6%)	27(29.0%)
平成 29 年度	5(4.7%)	78(72.9%)	21(19.6%)
平成 28 年度	4(3.9%)	69(67.6%)	23(22.5%)
平成 27 年度	3(2.7%)	91(81.3%)	18(16.1%)
平成 26 年度	23(21.7%)	62(58.5%)	17(16.0%)

(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。

	とても満足	やや満足	やや不満	とても不満
平成 30 年度	25(26.9%)	54(58.1%)	10(10.8%)	0(0.0%)
平成 29 年度	26(24.3%)	64(59.8%)	14(13.1%)	0(0.0%)
平成 28 年度	16(15.7%)	64(62.7%)	13(12.7%)	3(2.9%)
平成 27 年度	30(26.8%)	73(65.2%)	9(8.0%)	0(0.0%)
平成 26 年度	32(30.2%)	54(50.9%)	15(14.2%)	1(0.9%)

(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1 ストレートマスター対象)

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 30 年度	7(18.9%)	27(73.0%)	2(5.4%)	0(0.0%)
平成 29 年度	16(29.1%)	24(43.6%)	7(12.7%)	1(1.9%)
平成 28 年度	10(27.0%)	19(51.4%)	5(13.5%)	1(2.7%)
平成 27 年度	13(27.1%)	33(68.8%)	2(4.2%)	0(0.0%)
平成 26 年度	17(34.0%)	27(54.0%)	2(4.0%)	0(0.0%)

(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びづけることができましたか。(M2 ストレートマスター対象)

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 30 年度	12(29.3%)	19(46.3%)	6(14.6%)	4(9.8%)
平成 29 年度	13(25.0%)	22(42.3%)	8(15.4%)	1(1.9%)
平成 28 年度	11(22.9%)	29(60.4%)	3(6.3%)	2(4.2%)
平成 27 年度	23(48.9%)	18(38.3%)	6(12.8%)	0(0.0%)

※授業内容について、期待外れと回答している院生が約 1 割いることは、重く受け止める必要がある。自由記述において、「講義内容が院生の実態に合わないと感じることがありました。」という記述があり、院生の実態、院生が望んでいることを踏まえた授業内容にしていくことを考える必要がある。

時間割編成についても、例年並みであるが、「あまり適切でない」という回答が非常に多くなっている。自由記述も、夜の遅い時間の授業開設に対する疑問が多く書かれている。改善できるところは改善しつつ、院生にも時間割の事情をていねいに説明する必要がある。

カリキュラムに関わる質問について、全体的に、「とても」よりも「やや」の肯定の割合が非常に大きくなっている。強く肯定されているわけではないことに留意することは必要である。

### 3. 院生への支援体制について

(12) 履修指導は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 30 年度	33(35.5%)	45(48.4%)	9(9.7%)	1(1.1%)
平成 29 年度	37(34.6%)	54(50.5%)	8(7.5%)	5(4.7%)
平成 28 年度	23(22.5%)	62(60.0%)	8(7.8%)	2(2.0%)
平成 27 年度	42(37.5%)	61(54.5%)	6(5.4%)	0(0.0%)
平成 26 年度	36(34.0%)	52(49.1%)	13(12.3%)	1(0.9%)
平成 25 年度	26(22.8%)	60(52.6%)	21(18.4%)	5(4.4%)

(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 30 年度	27(29.0%)	46(49.5%)	6(6.5%)	2(2.2%)
平成 29 年度	24(22.4%)	50(46.7%)	17(15.9%)	2(1.9%)
平成 28 年度	20(23.5%)	47(55.3%)	7(8.2%)	1(1.2%)
平成 27 年度	30(31.6%)	48(50.5%)	15(15.8%)	1(1.1%)
平成 26 年度	21(19.8%)	51(48.1%)	16(15.1%)	2(1.9%)
平成 25 年度	18(15.8%)	59(51.8%)	23(20.2%)	1(0.9%)

(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 30 年度	32(34.4%)	44(47.3%)	7(7.5%)	1(1.1%)
平成 29 年度	31(29.0%)	49(45.8%)	12(11.2%)	2(1.9%)
平成 28 年度	23(27.1%)	47(55.3%)	7(8.2%)	0(0.0%)
平成 27 年度	43(45.3%)	44(46.3%)	6(6.3%)	1(1.1%)
平成 26 年度	37(34.9%)	45(42.5%)	9(8.5%)	0(0.0%)
平成 25 年度	29(25.4%)	49(43.0%)	21(18.4%)	4(3.5%)

(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。

	とても思う	ややそう思う	あまりそう思わない	まったく思わない
平成 30 年度	50(53.8%)	33(35.5%)	5(5.4%)	2(2.2%)
平成 29 年度	58(54.3%)	41(38.3%)	4(3.7%)	1(0.9%)
平成 28 年度	46(45.1%)	42(41.2%)	7(6.9%)	0(0.0%)
平成 27 年度	67(59.8%)	39(34.8%)	5(4.5%)	0(0.0%)
平成 26 年度	59(55.7%)	39(36.8%)	3(2.8%)	1(0.9%)

※昨年度と比較すると、就職支援体制、実習支援体制について、「あまり適切でない」という回答がかなり少なくなり、昨年ほどの不満はなかったと言える。履修指導やゼミ指導も含めて、不満を感じている院生が皆無にはならないので、常に院生の様子をしっかりと受け止められるように努める必要がある。

#### 4. 施設設備

(16)-1 教室の設備は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 30 年度	15(16.1%)	41(44.1%)	27(29.0%)	6(6.5%)
平成 29 年度	16(15.0%)	37(34.5%)	42(39.3%)	10(9.3%)
平成 28 年度	18(17.0%)	52(51.0%)	19(18.6%)	5(4.9%)
平成 27 年度	18(16.1%)	67(59.8%)	21(18.8%)	3(2.7%)
平成 26 年度	18(17.0%)	59(55.7%)	22(20.8%)	3(2.8%)
平成 25 年度	7(6.1%)	61(53.5%)	40(35.1%)	6(5.3%)

(16)-2 院生室の設備は適切でしたか。

	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 30 年度	14(15.1%)	38(40.9%)	29(31.2%)	10(10.8%)
平成 29 年度	31(29.0%)	36(33.6%)	24(22.4%)	16(15.0%)
平成 28 年度	17(16.7%)	55(53.9%)	22(21.6%)	5(4.9%)
平成 27 年度	34(30.4%)	46(41.1%)	23(20.5%)	5(4.5%)
平成 26 年度	17(16.0%)	46(43.4%)	29(27.4%)	10(9.4%)
平成 25 年度	16(14.0%)	48(42.1%)	42(36.8%)	7(6.1%)

(16)-3 大学の設備は適切でしたか。

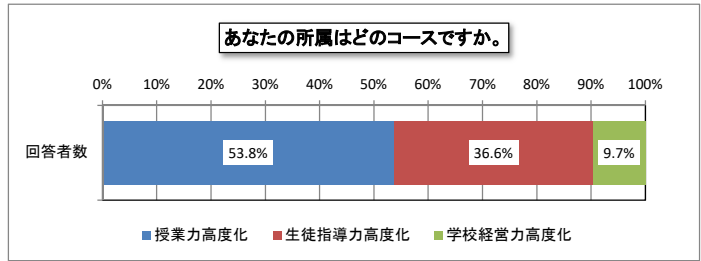
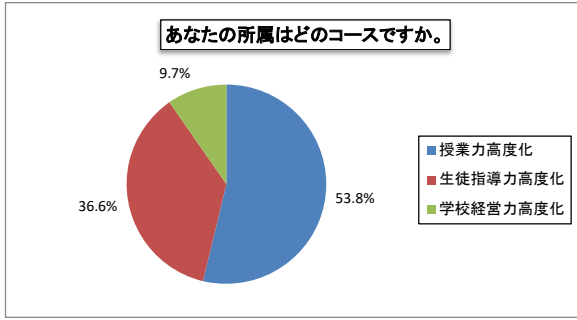
	適切	まあまあ適切	あまり適切でない	まったく適切でない
平成 30 年度	11(11.8%)	43(46.2%)	32(34.4%)	4(4.3%)
平成 29 年度	10(9.3%)	48(44.9%)	39(36.5%)	10(9.3%)
平成 28 年度	11(10.8%)	51(50.0%)	35(34.3%)	2(2.0%)

平成 27 年度	34(30.4%)	46(41.1%)	23(20.5%)	5(4.5%)
平成 26 年度	17(16.0%)	46(43.4%)	29(27.4%)	10(9.4%)
平成 25 年度	7(6.1%)	54(47.4%)	45(39.5%)	8(7.0%)

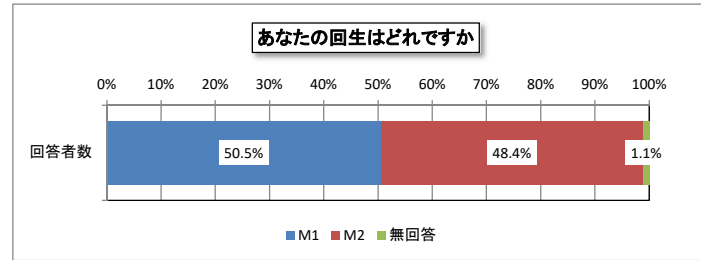
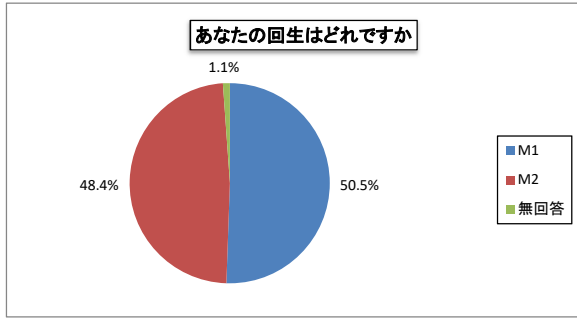
※施設・設備に対する不満は、相変わらず大きい。自由記述でも、自習室のパソコンに対する不満の記述が多くなっている。これからも予算要求を行い、環境整備に努めることが必要である。

# 授業アンケート(平成30年度後期 全体)

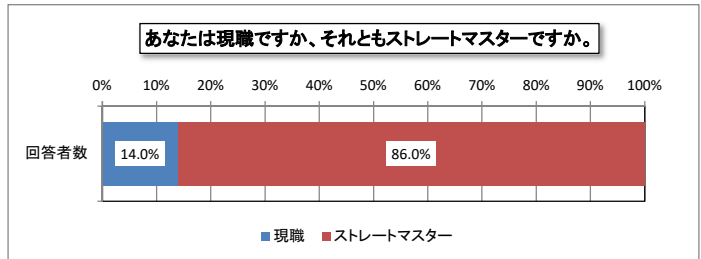
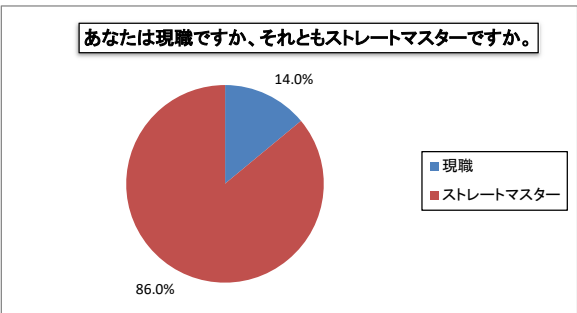
(1) あなたの所属はどのコースですか。



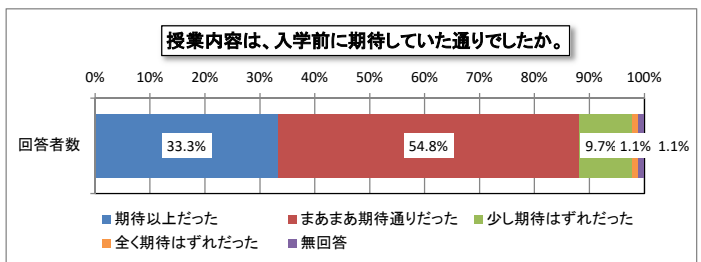
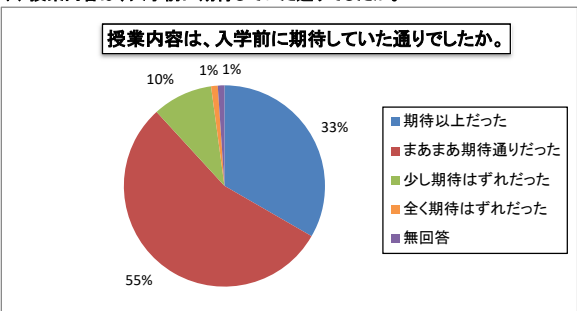
(2) あなたの回生はどれですか。



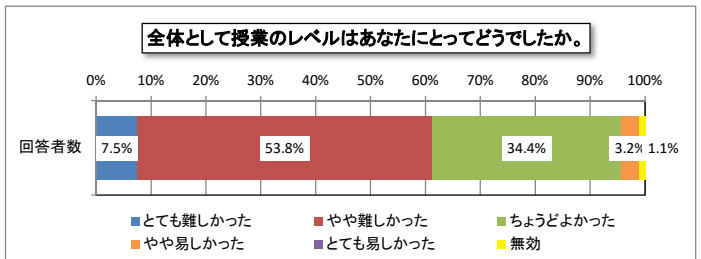
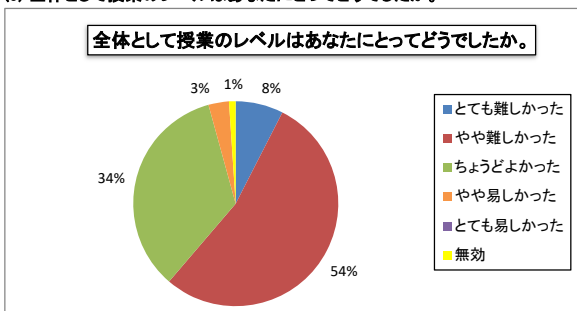
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

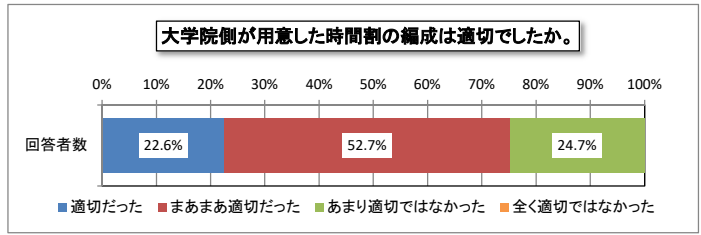
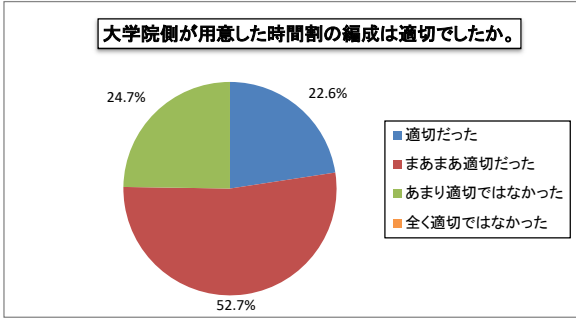


(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。

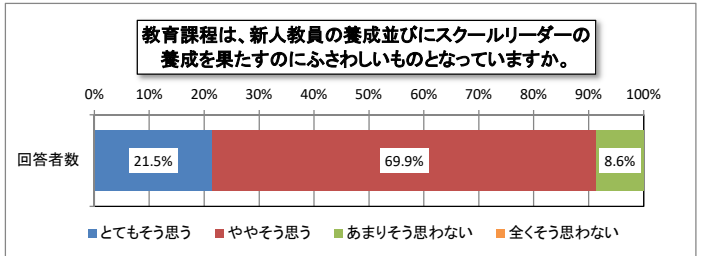
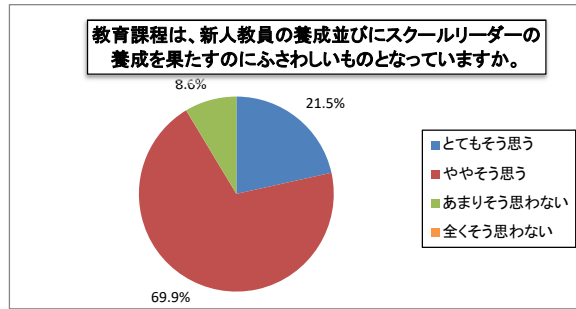


# 授業アンケート(平成30年度後期 全体)

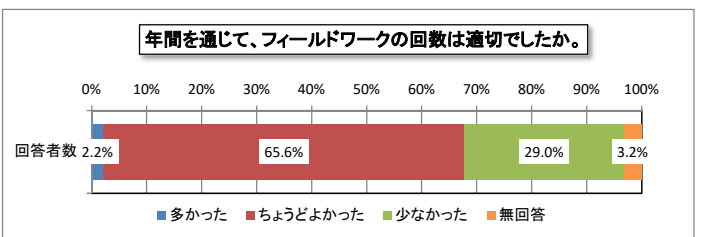
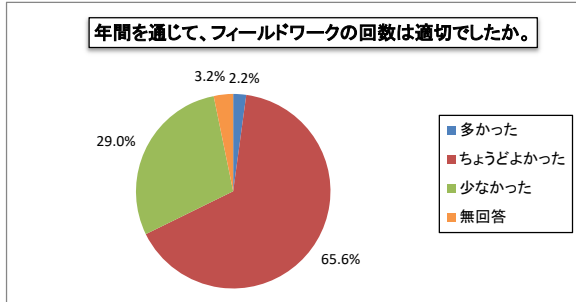
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



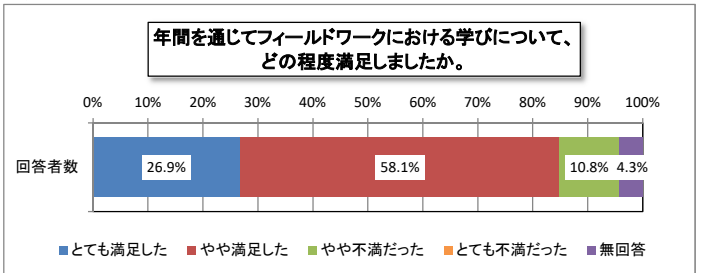
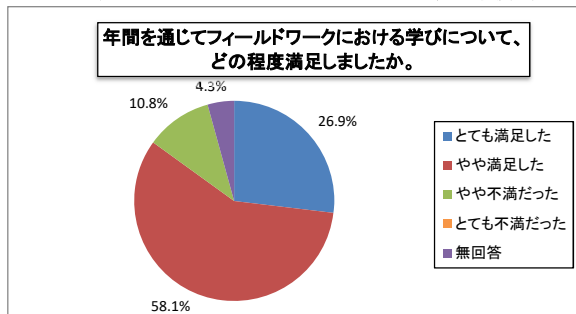
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新入教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



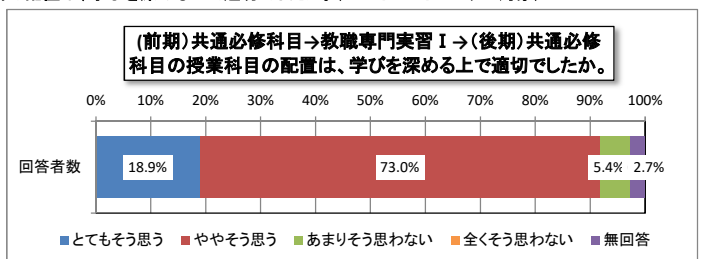
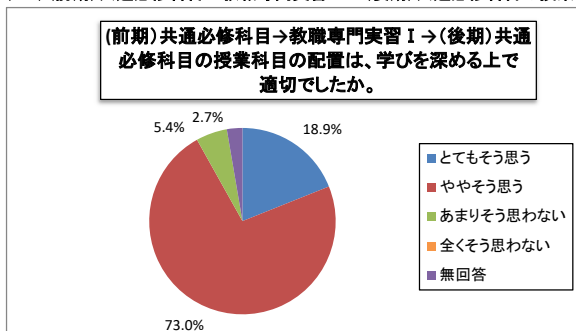
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。

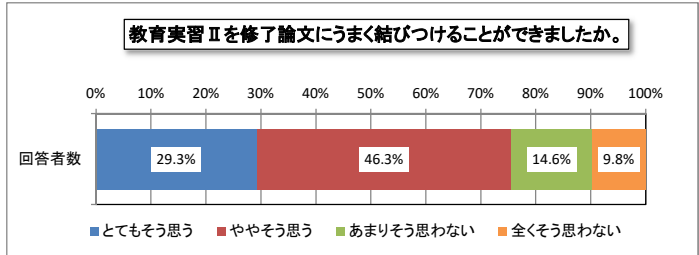
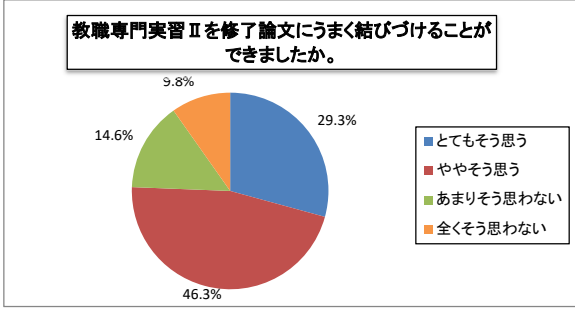


(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)

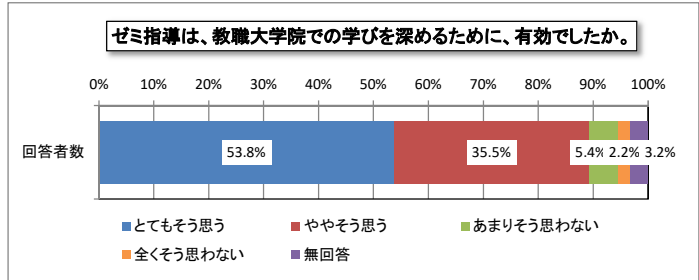
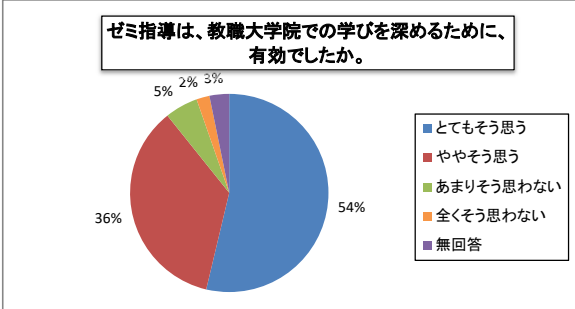


# 授業アンケート(平成30年度後期 全体)

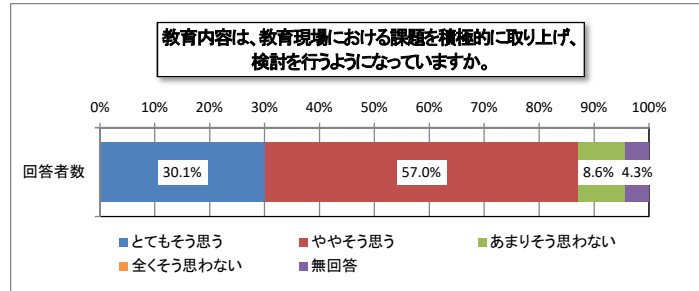
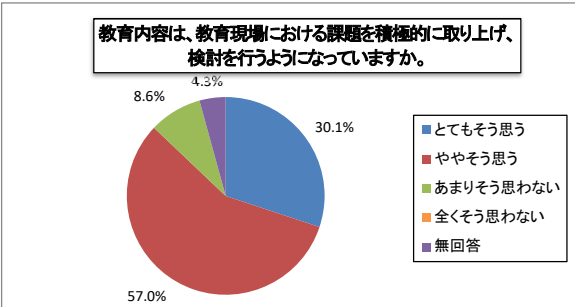
(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)



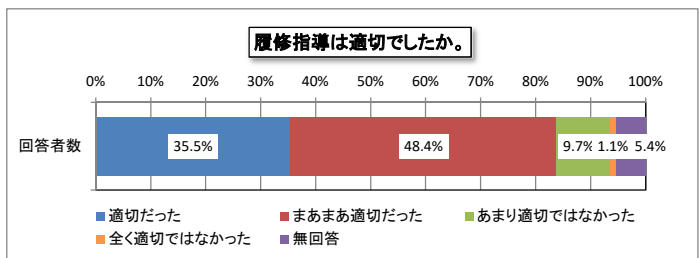
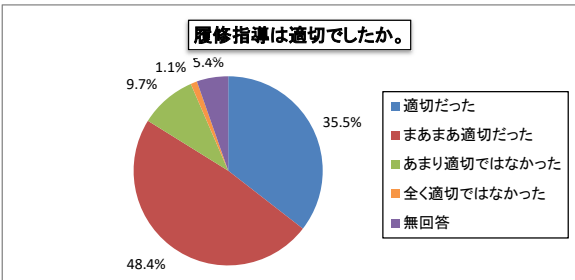
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



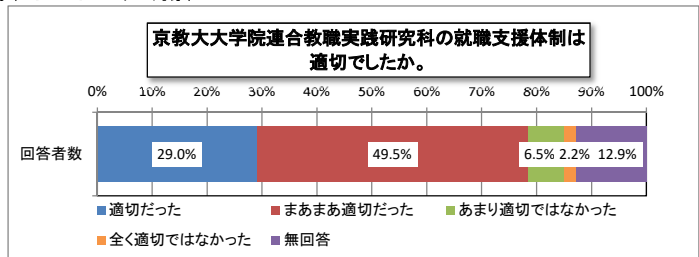
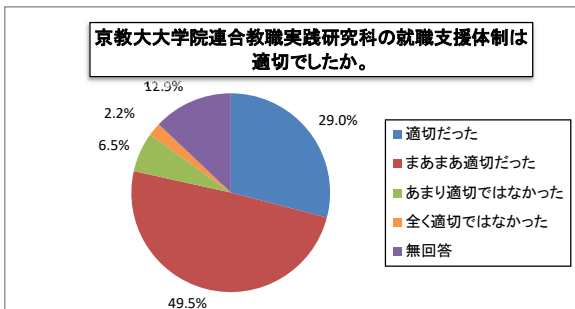
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていますか。



(12) 履修指導は適切でしたか。



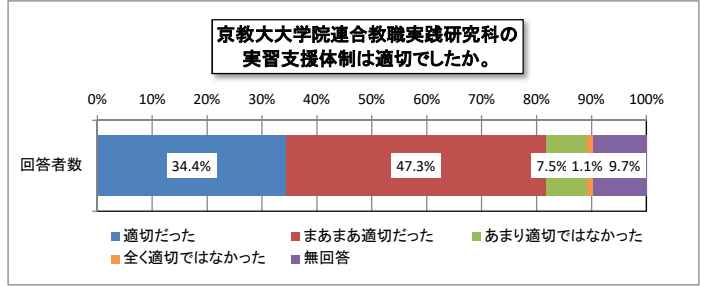
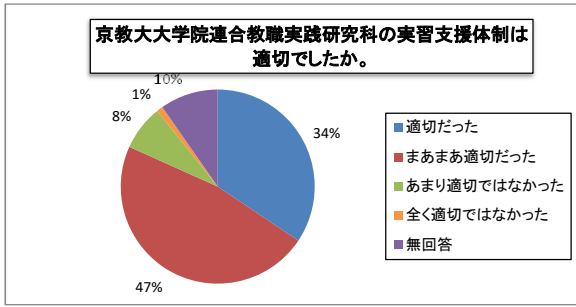
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



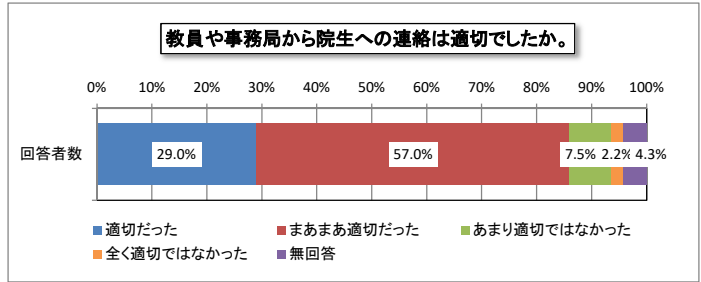
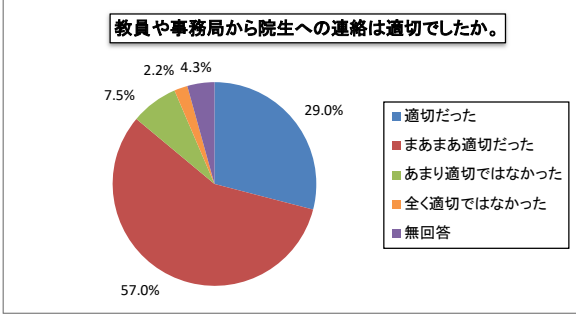


# 授業アンケート(平成30年度後期 全体)

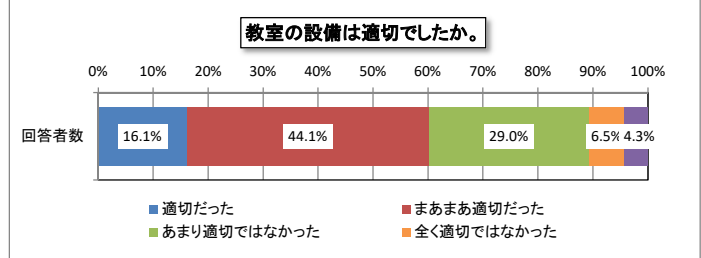
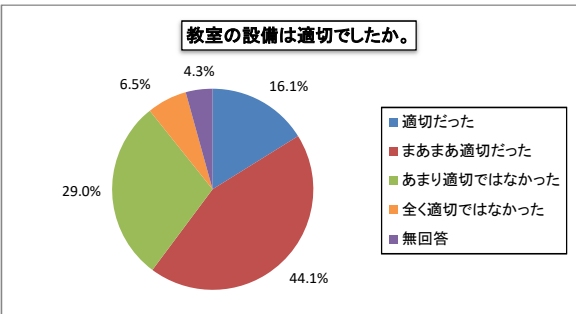
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)



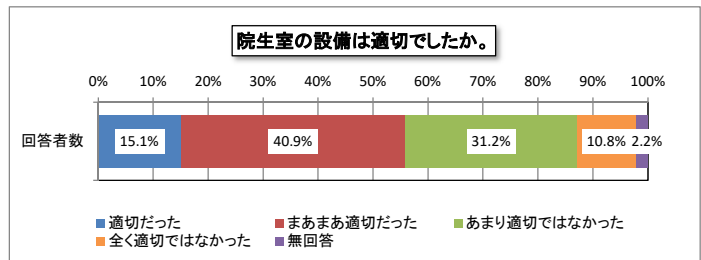
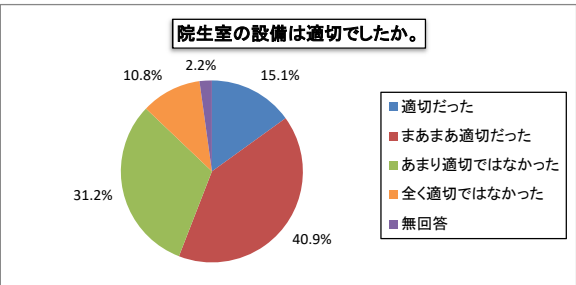
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



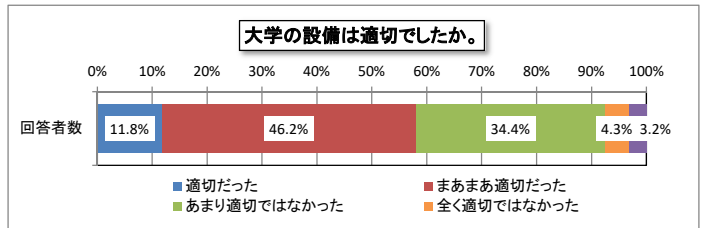
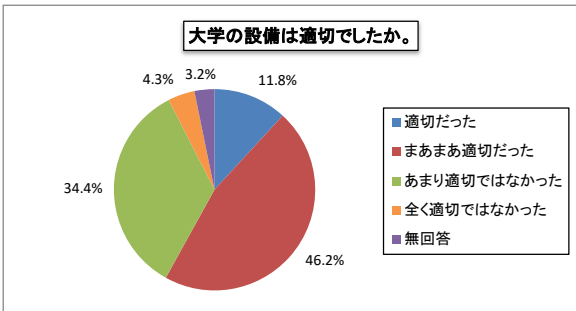
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。

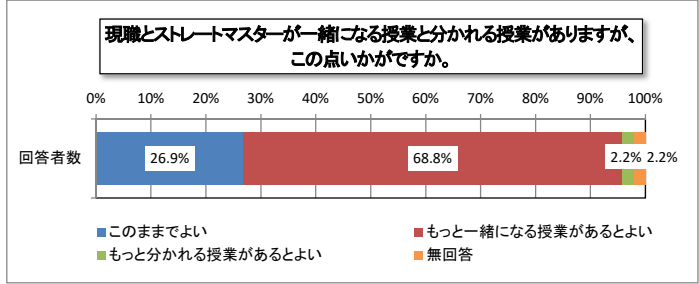
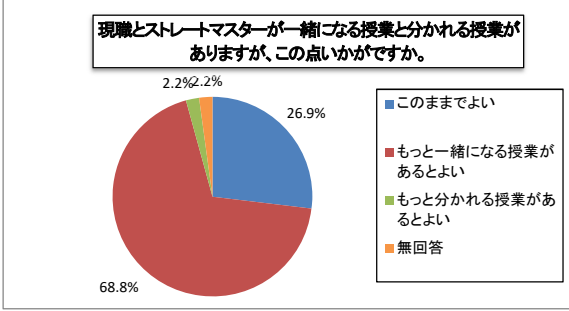


(16-3) 大学の設備は適切でしたか。

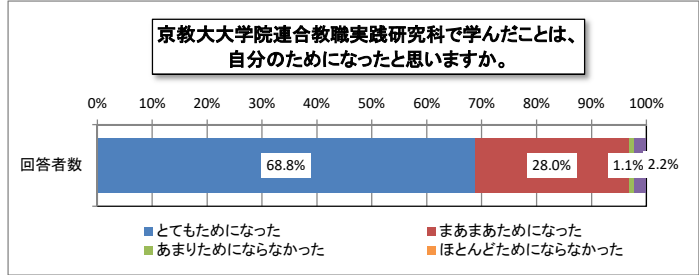
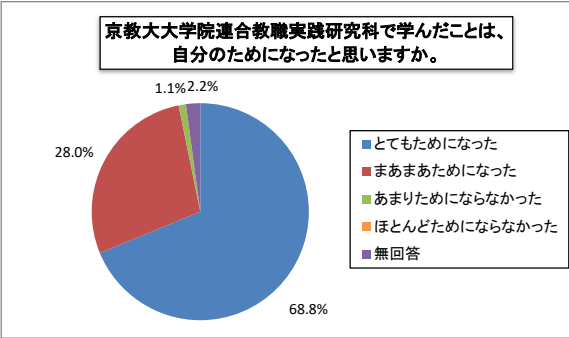


# 授業アンケート(平成30年度後期 全体)

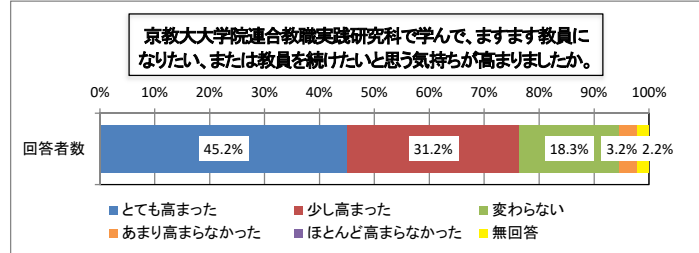
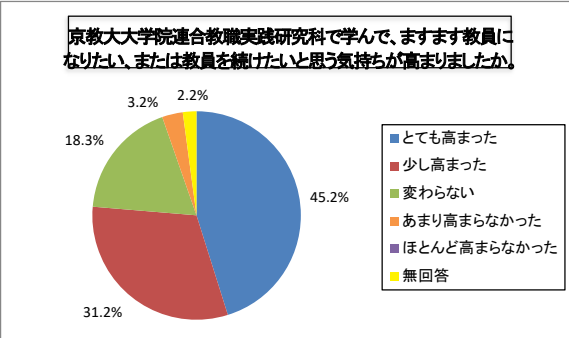
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



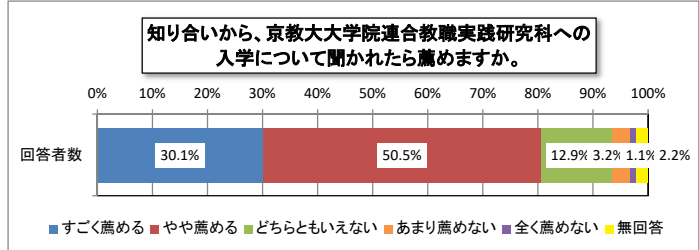
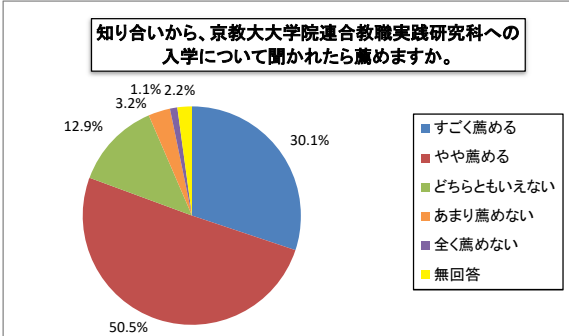
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

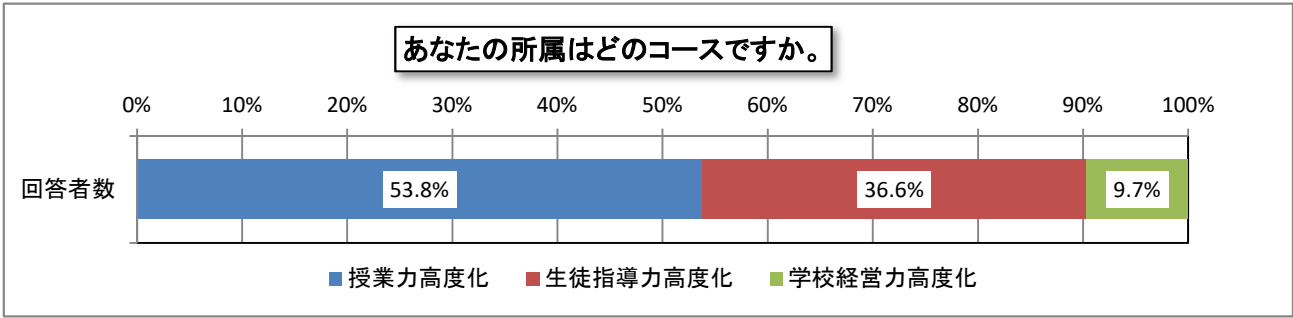


(20) 知り合い(先輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

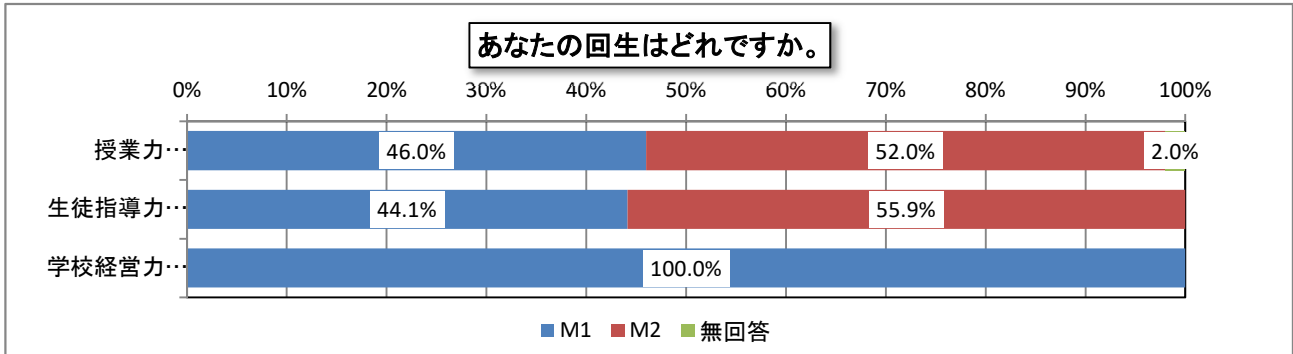


# 授業アンケート(平成30年度後期 コース別)

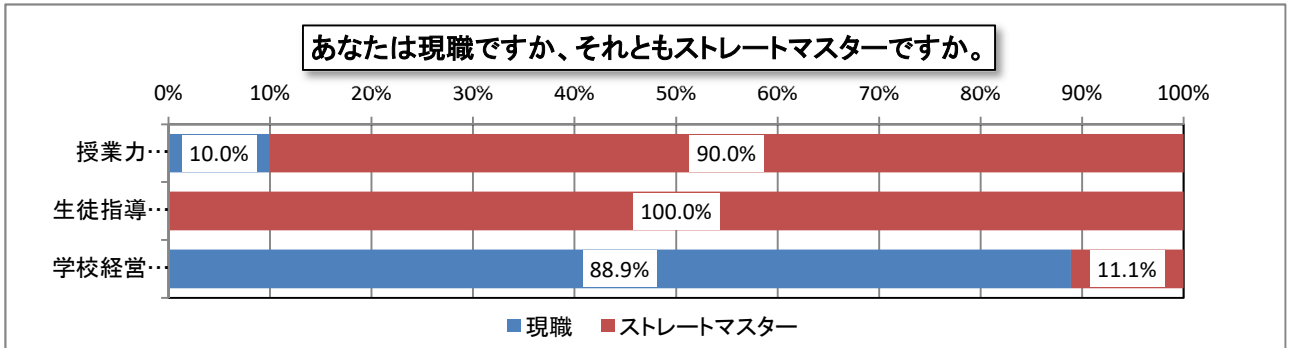
(1) あなたの所属はどのコースですか。



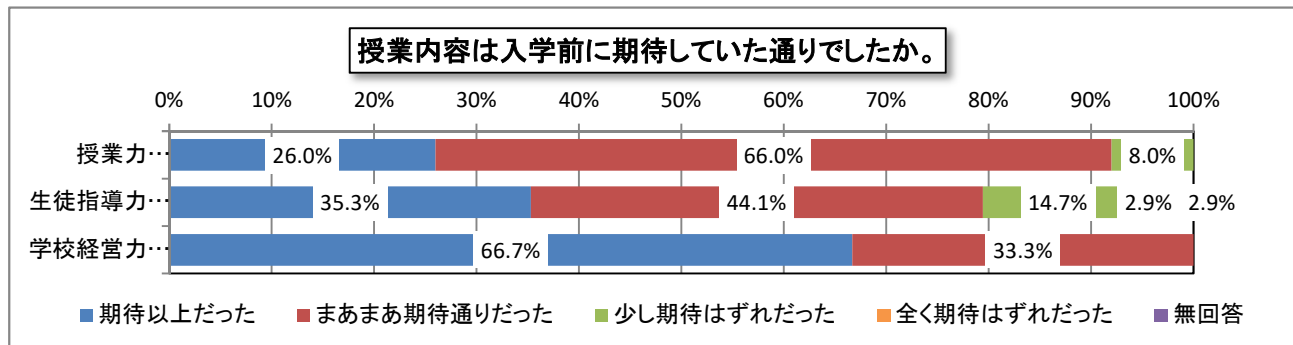
(2) あなたの回生はどれですか。



(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。

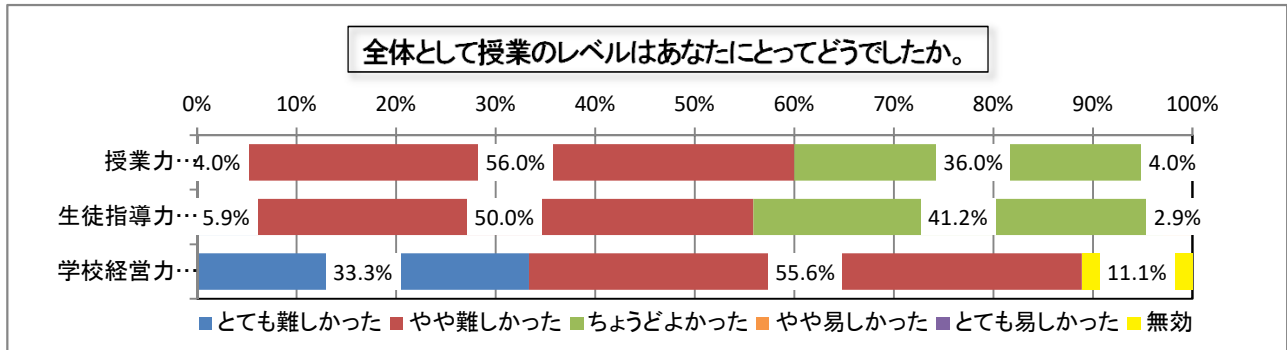


(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

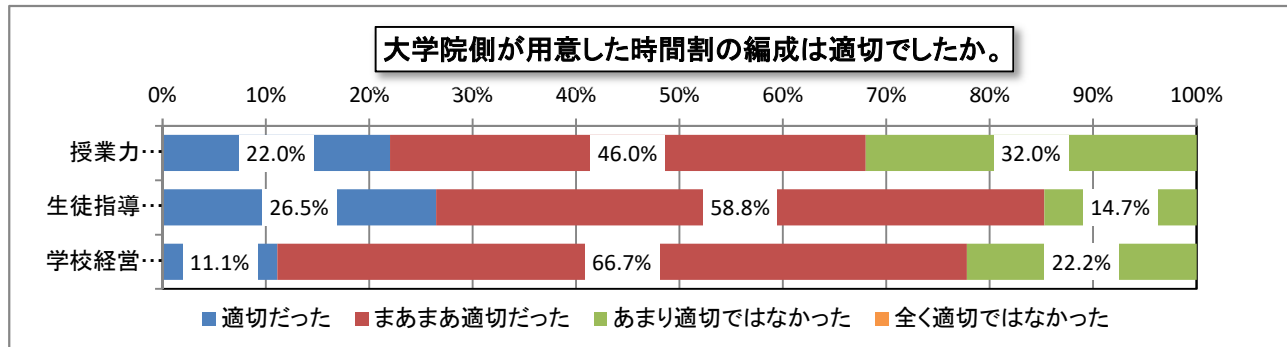


## 授業アンケート(平成30年度後期 コース別)

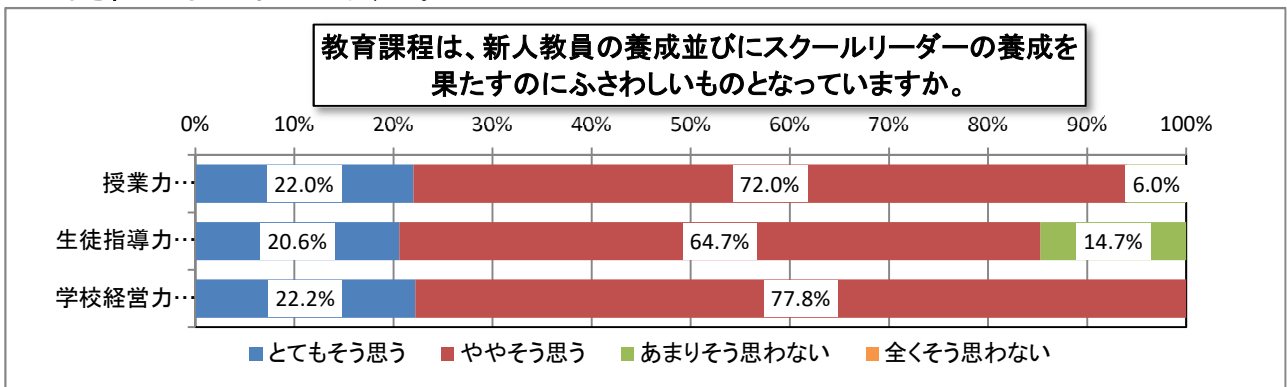
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



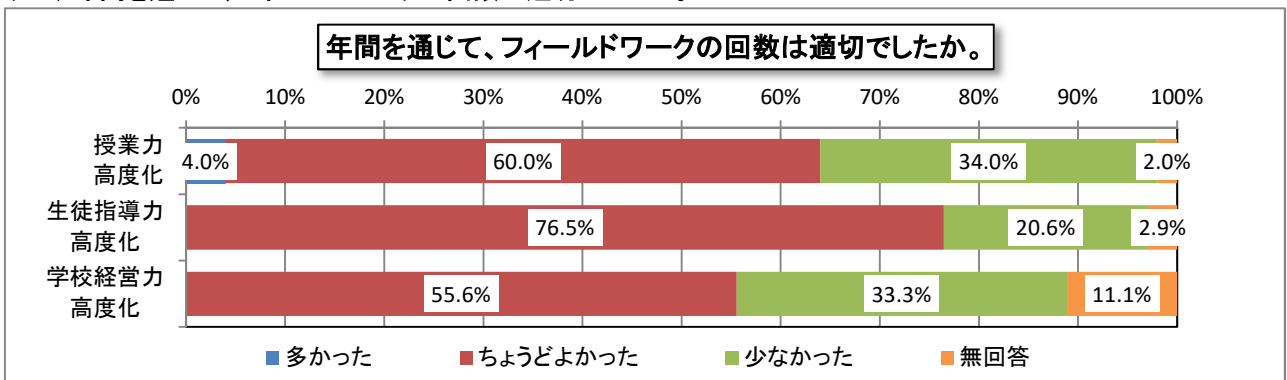
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

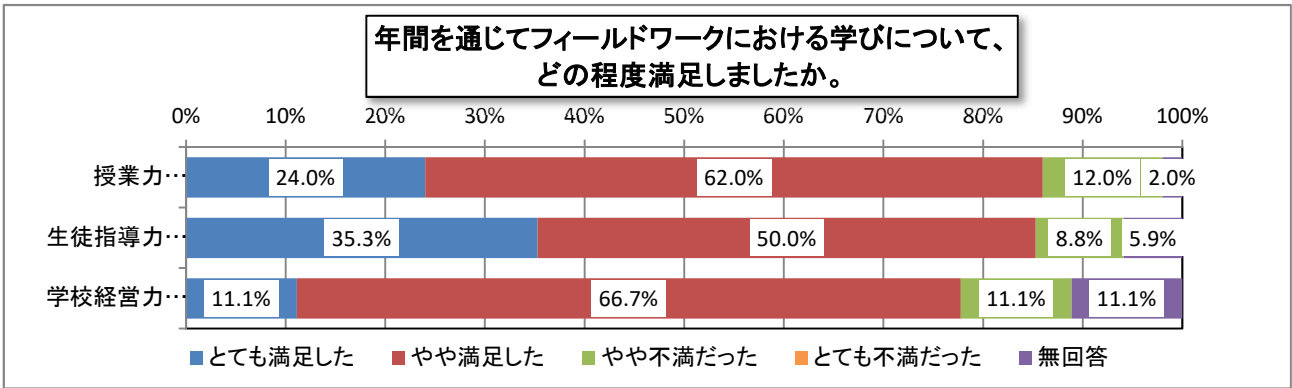


(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。

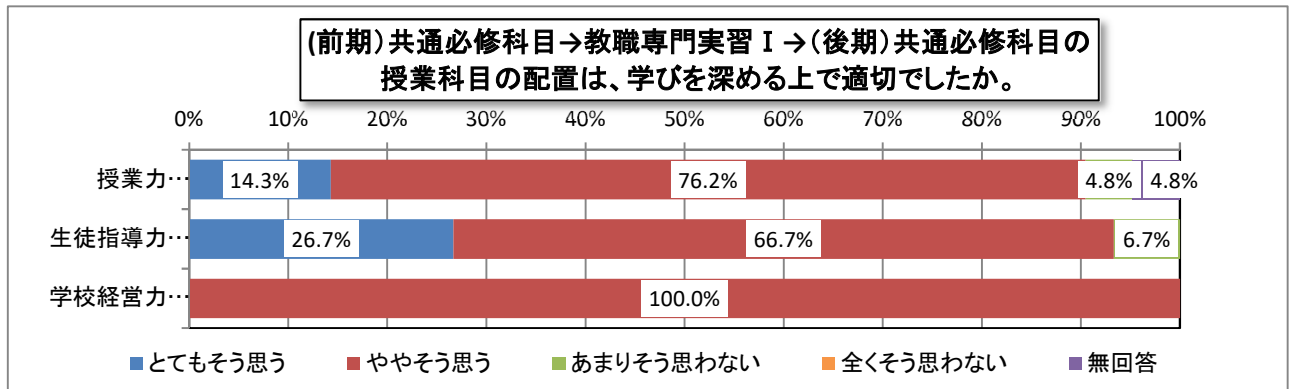


## 授業アンケート(平成30年度後期 コース別)

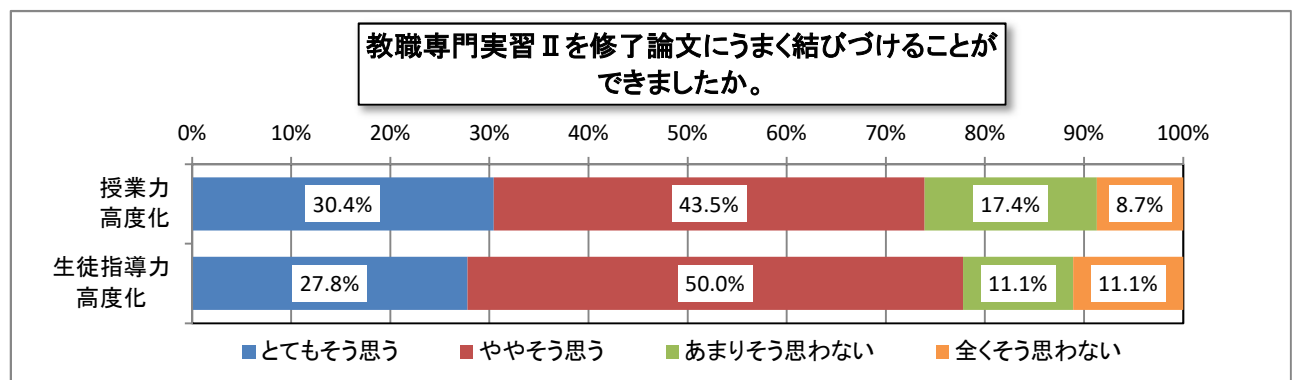
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



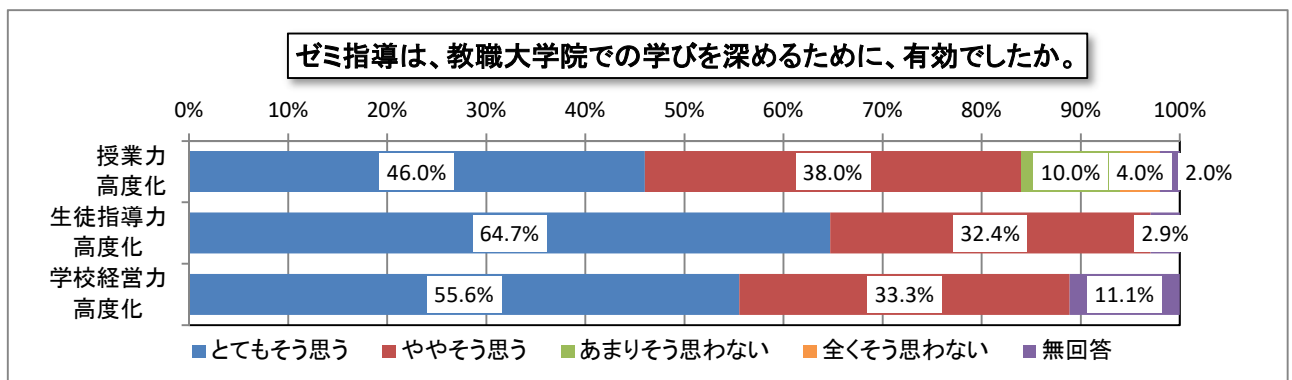
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)

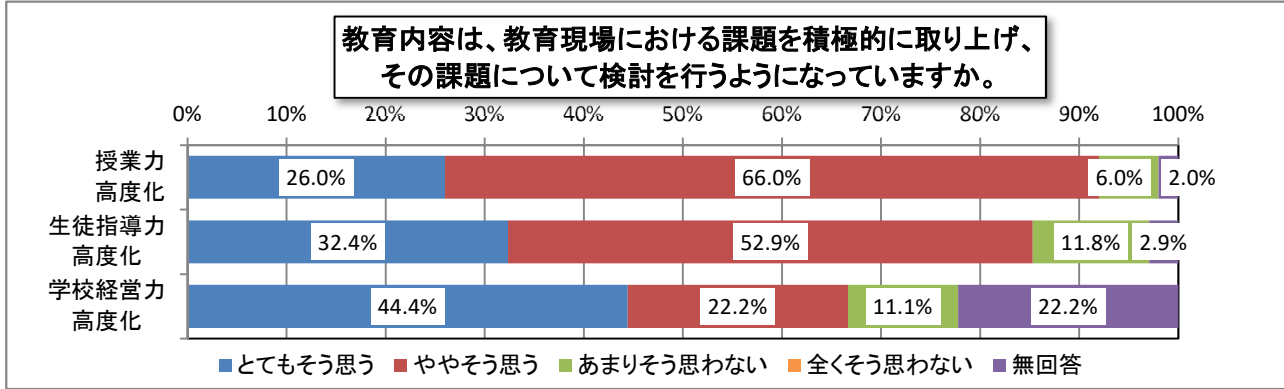


(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。

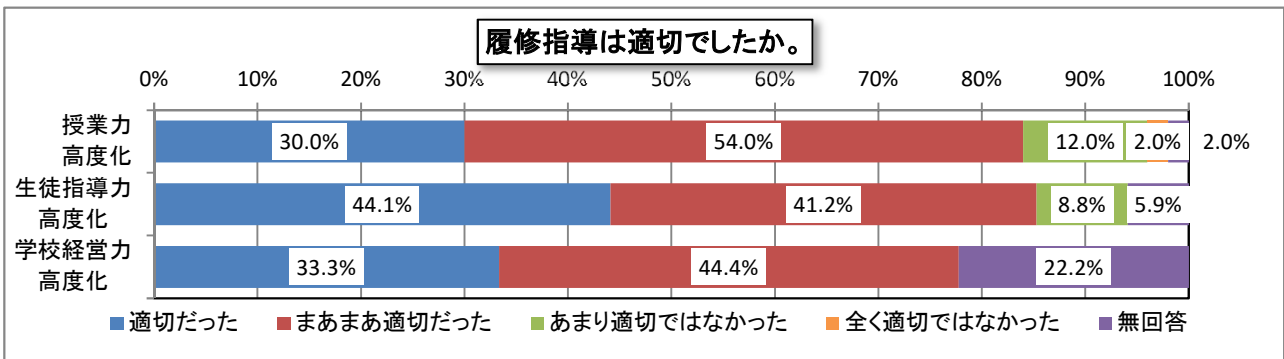


## 授業アンケート(平成30年度後期 コース別)

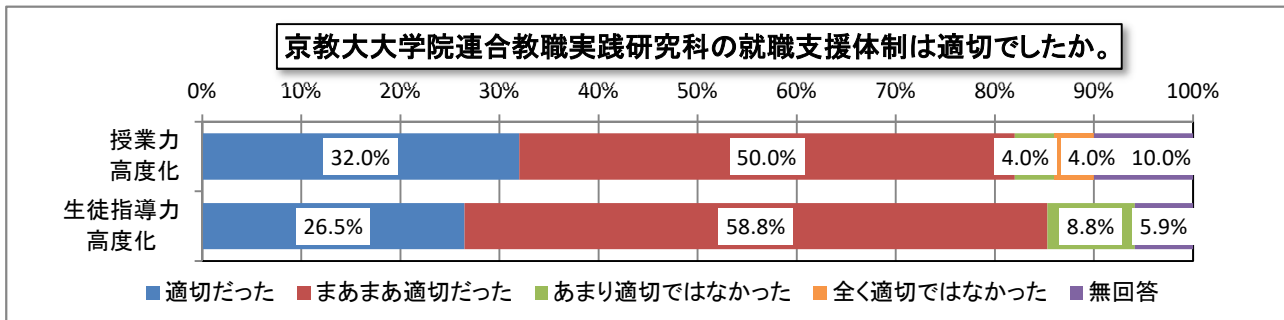
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。



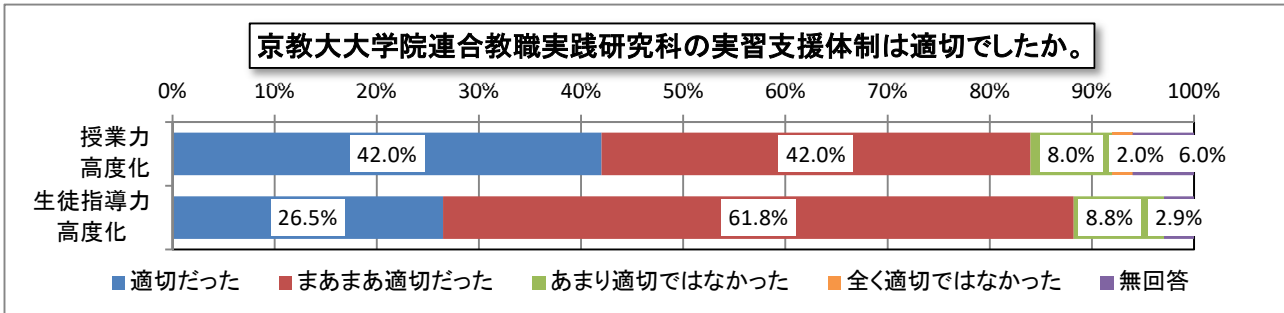
(12) 履修指導は適切でしたか。



(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)

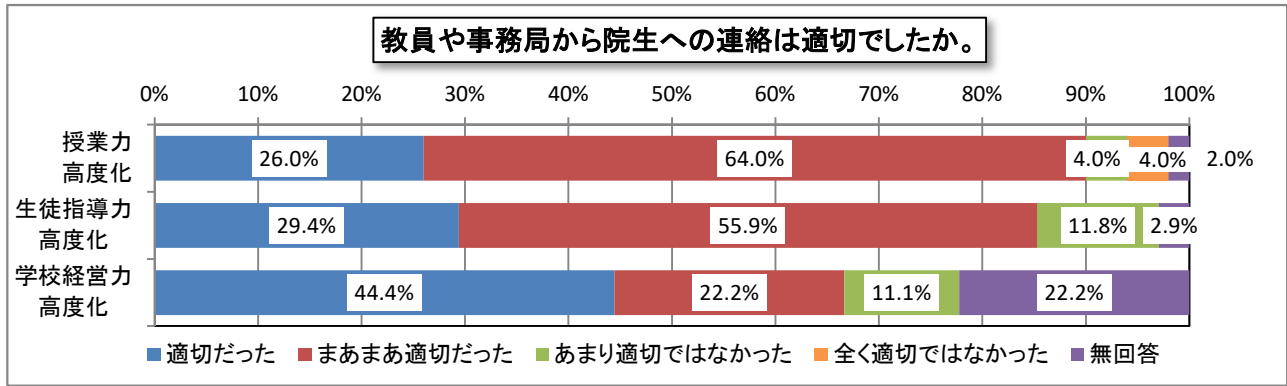


(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)

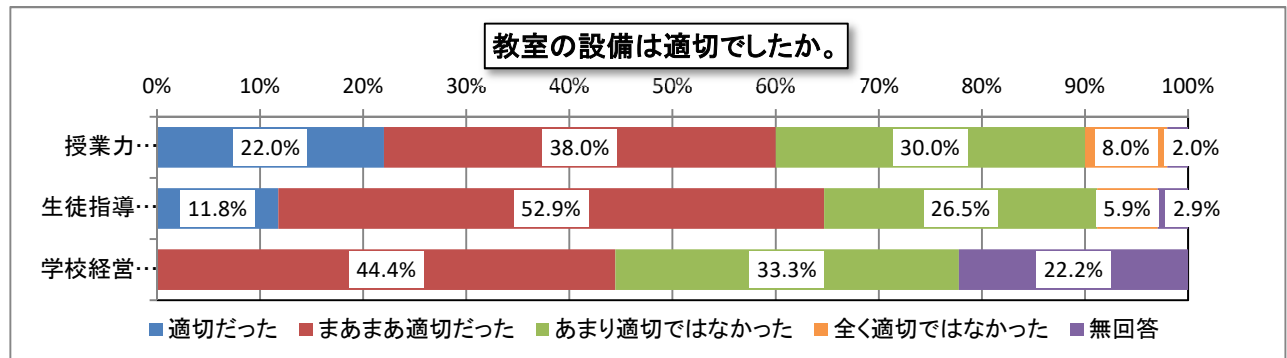


# 授業アンケート(平成30年度後期 コース別)

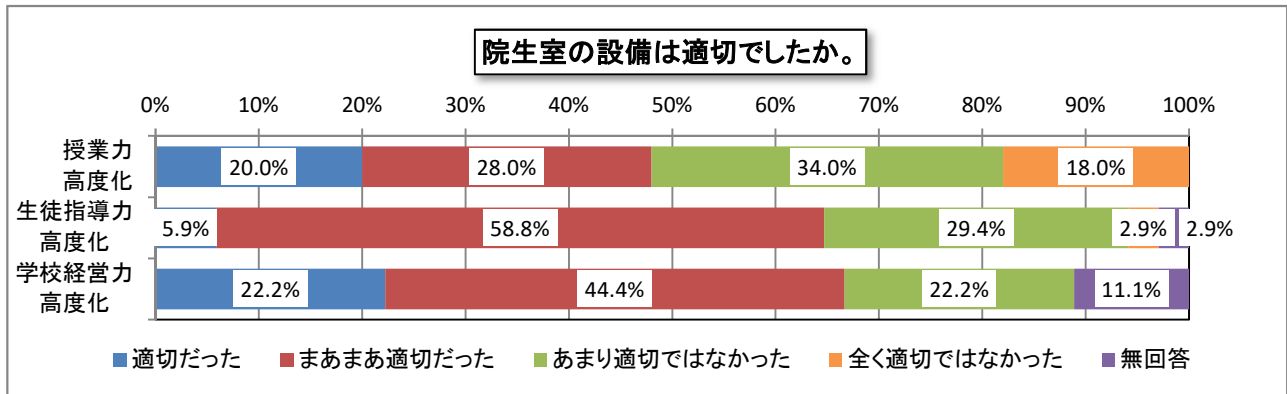
## (15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



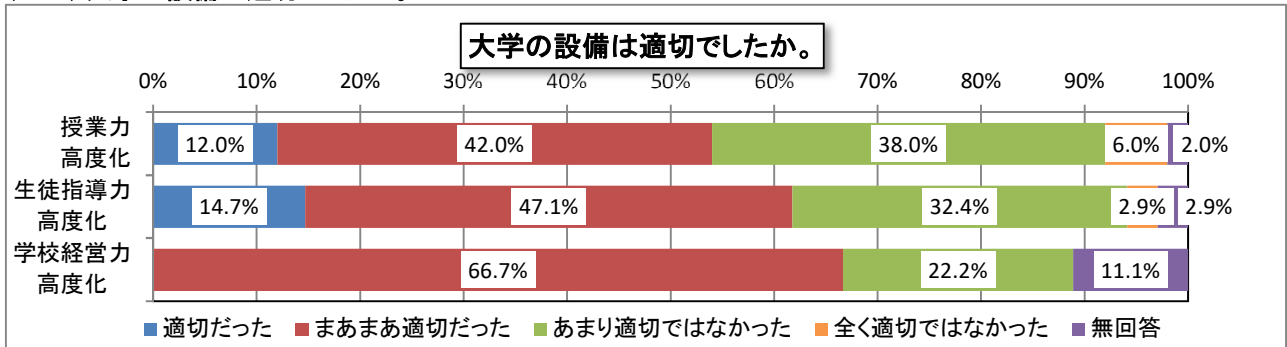
## (16-1) 教室の設備は適切でしたか。



## (16-2) 院生室の設備は適切でしたか。

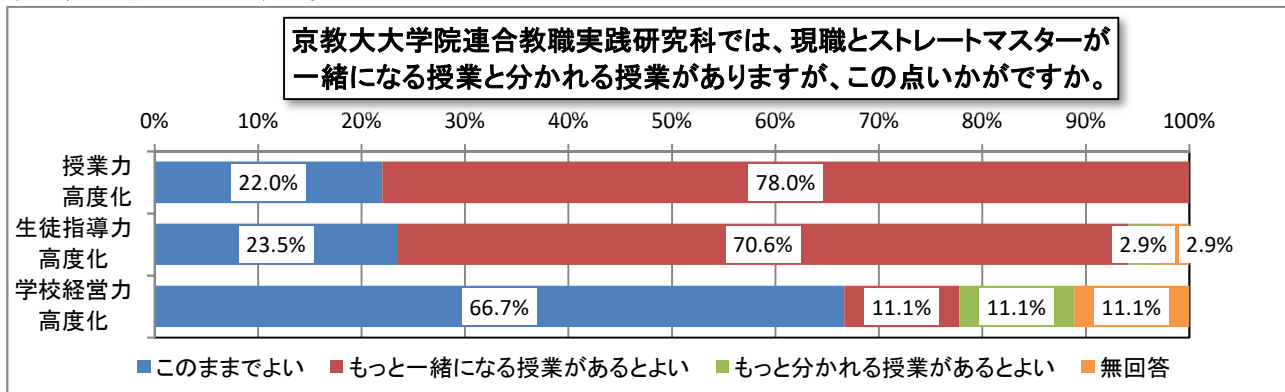


## (16-3) 大学の設備は適切でしたか。

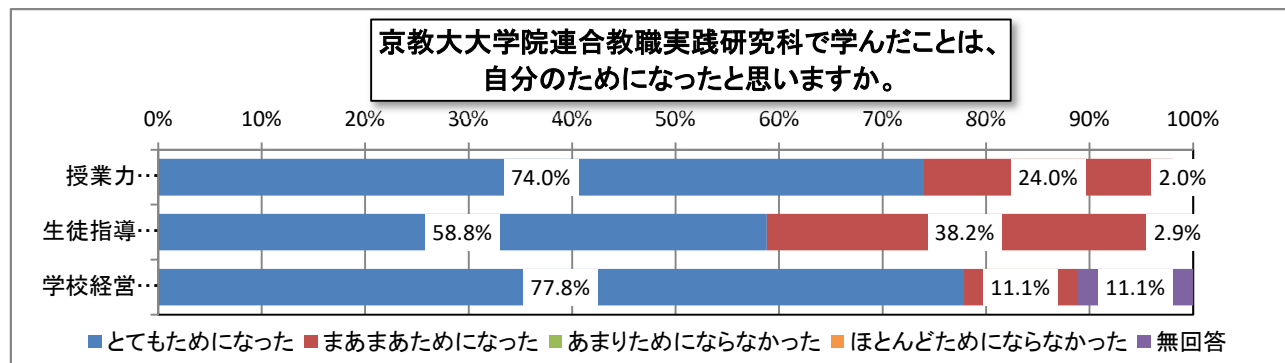


## 授業アンケート(平成30年度後期 コース別)

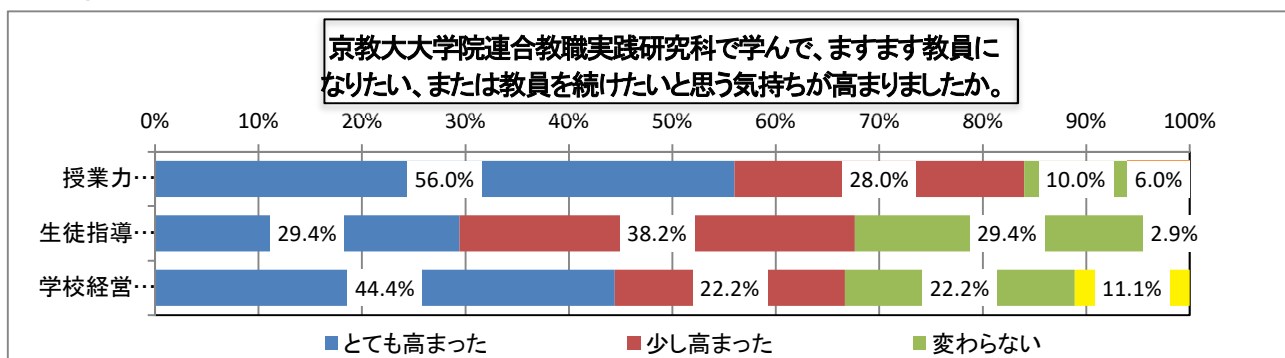
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



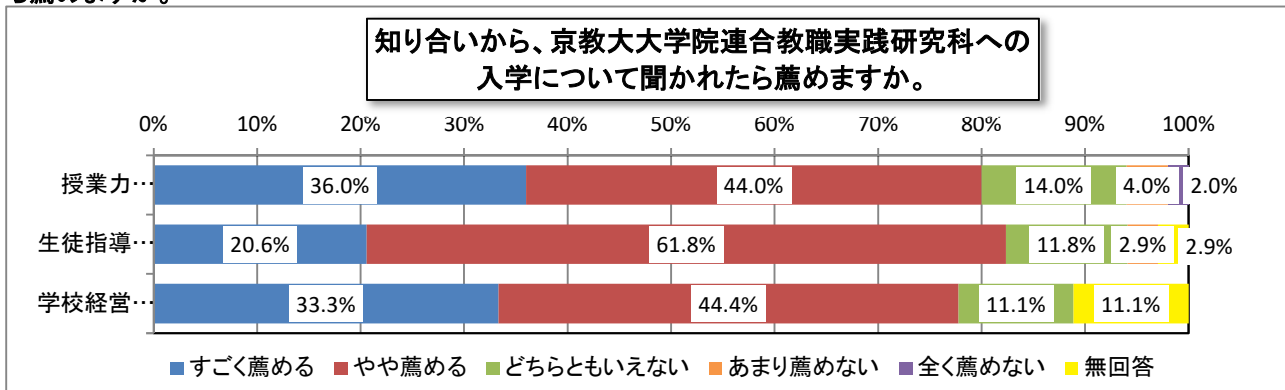
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。



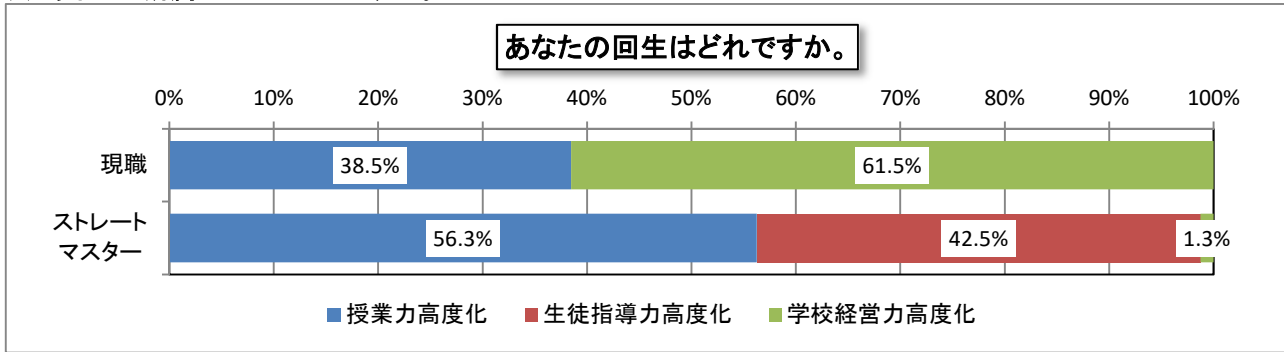
(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。



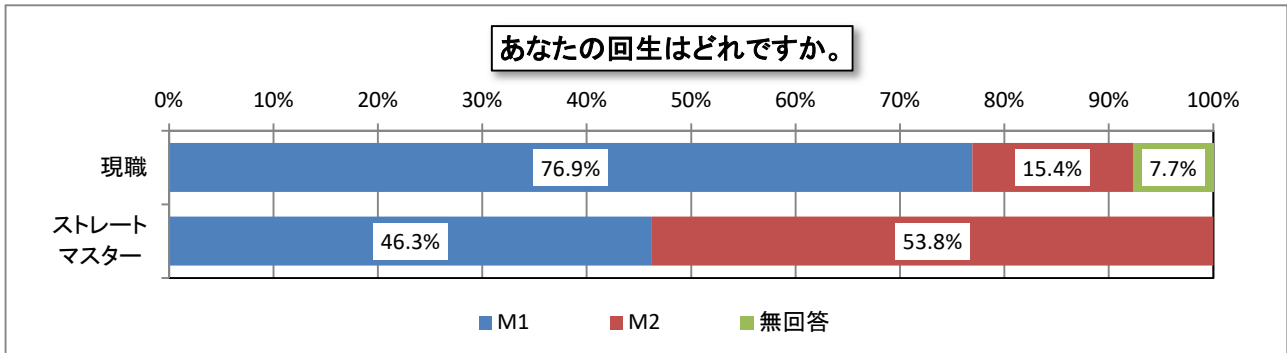


# 授業アンケート(平成30年度後期 現職・ストレートマスター別)

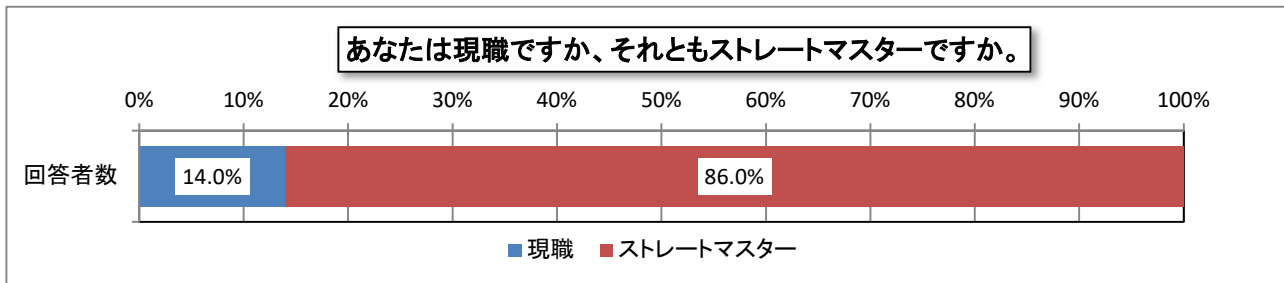
(1) あなたの所属はどのコースですか。



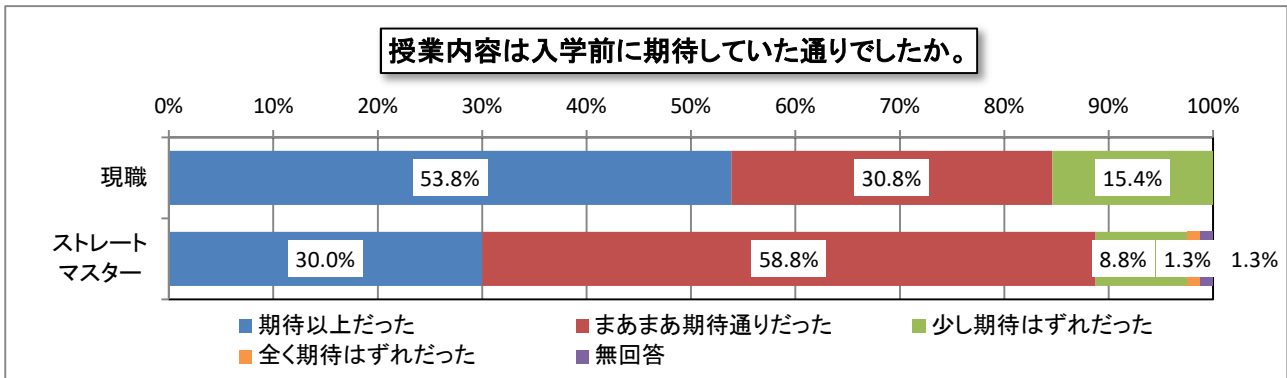
(2) あなたの回生はどれですか。



(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。

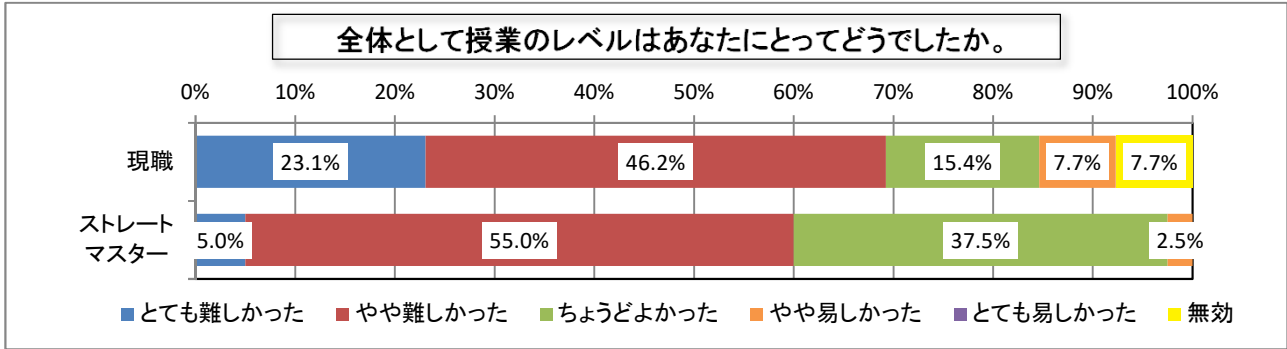


(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

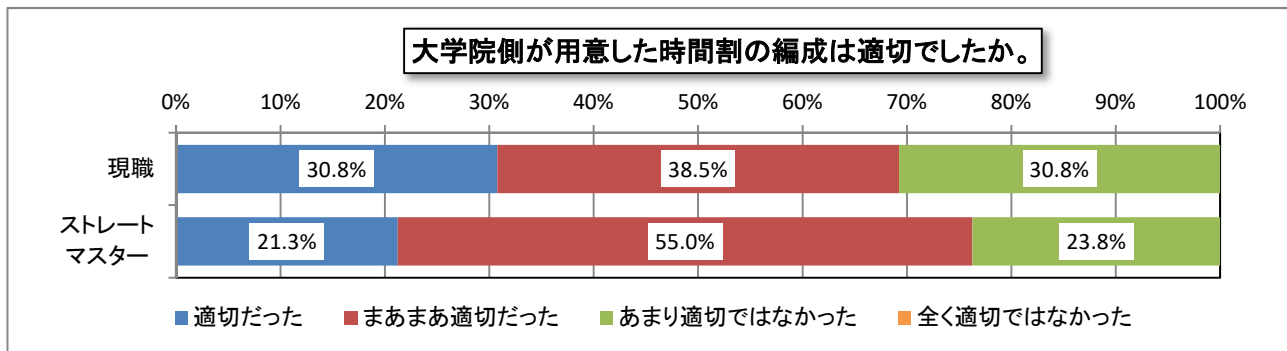


# 授業アンケート(平成30年度後期 現職・ストレートマスター別)

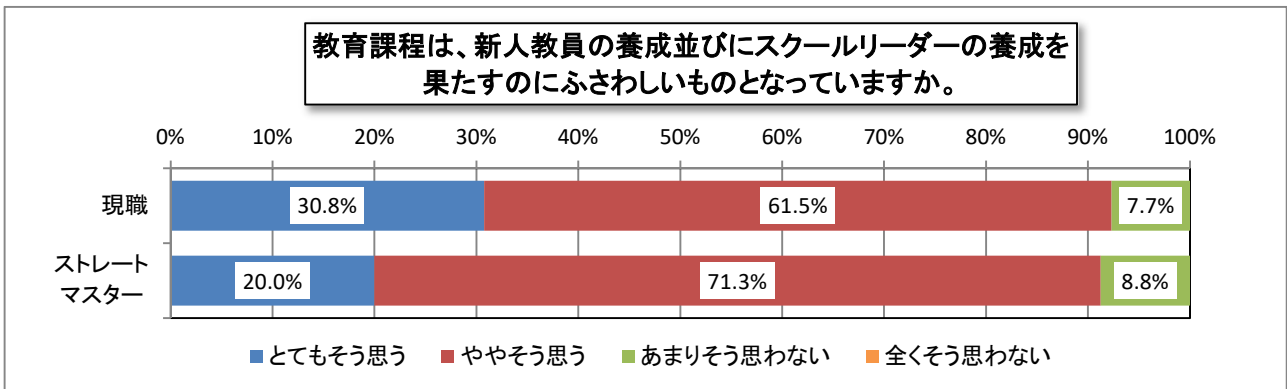
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



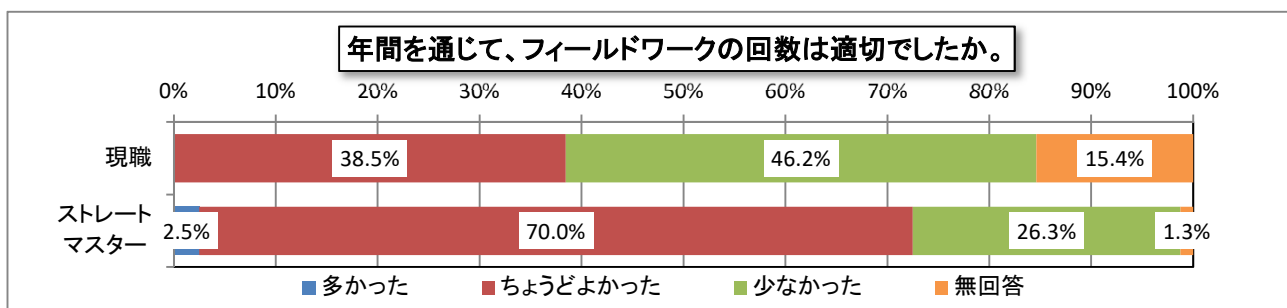
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

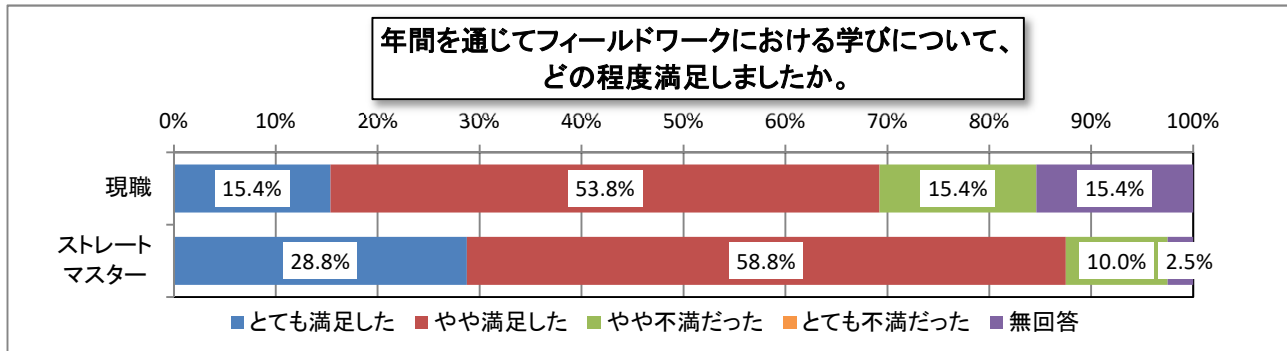


(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。

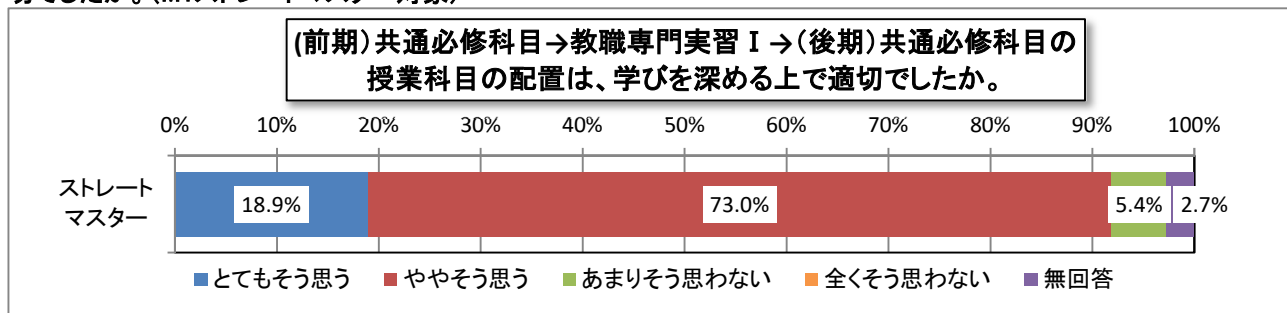


## 授業アンケート(平成30年度後期 現職・ストレートマスター別)

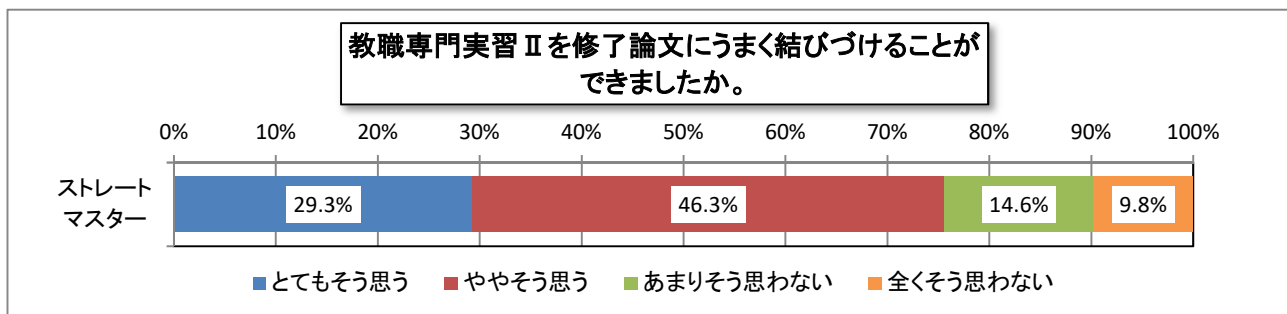
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



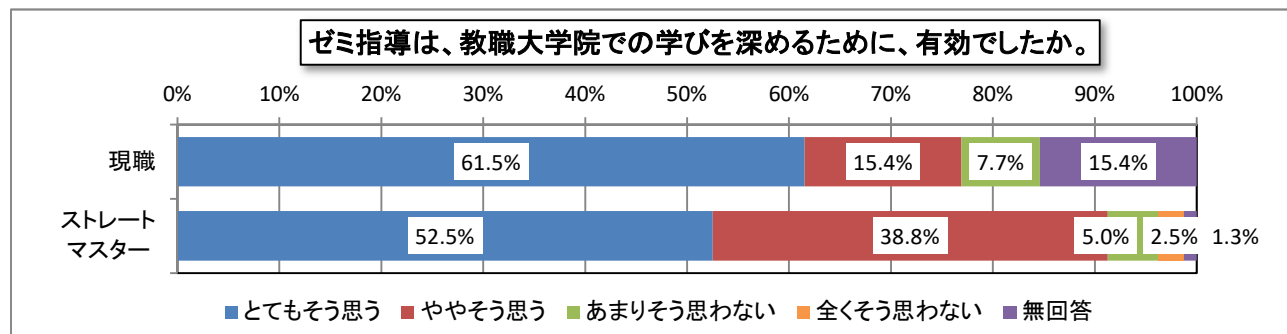
(9-1) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



(9-2) 教職専門実習Ⅱを修了論文にうまく結びつけることができましたか。(M2ストレートマスター対象)

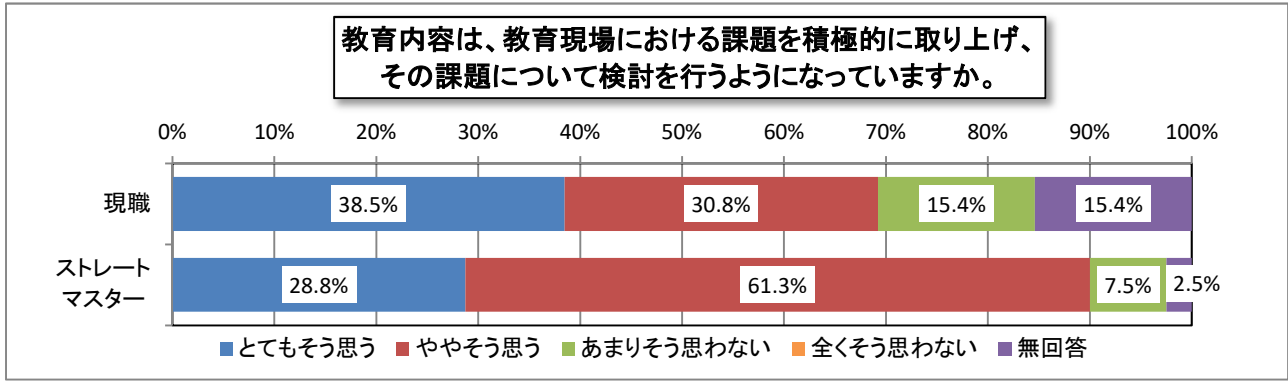


(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。

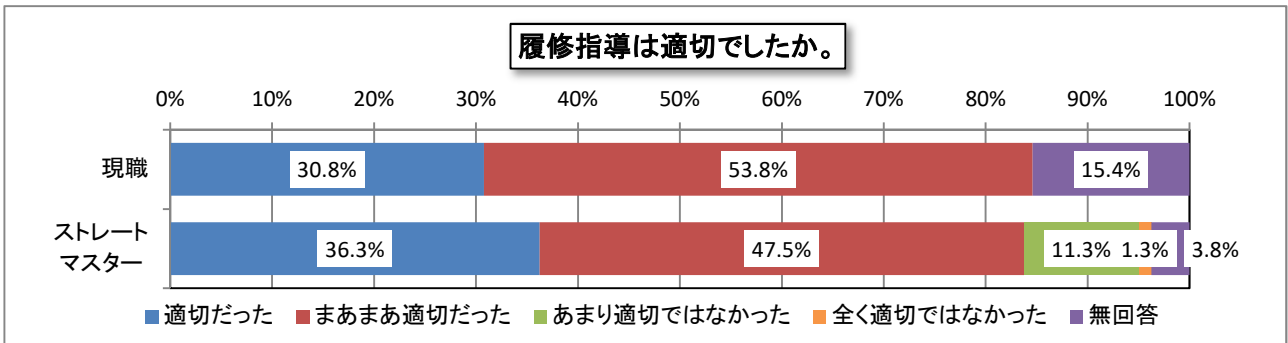


## 授業アンケート(平成30年度後期 現職・ストレートマスター別)

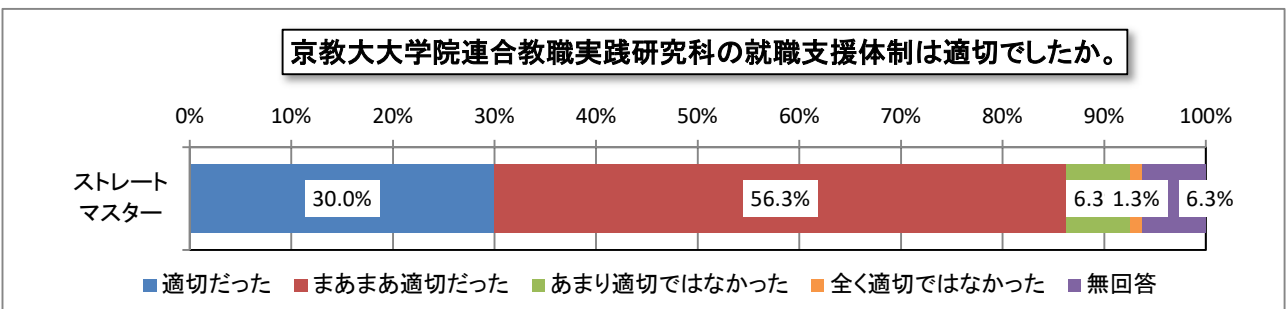
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。



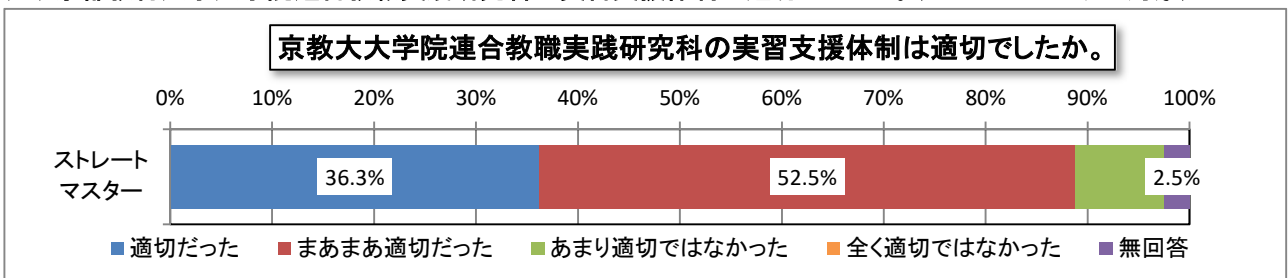
(12) 履修指導は適切でしたか。



(13) 京大大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)

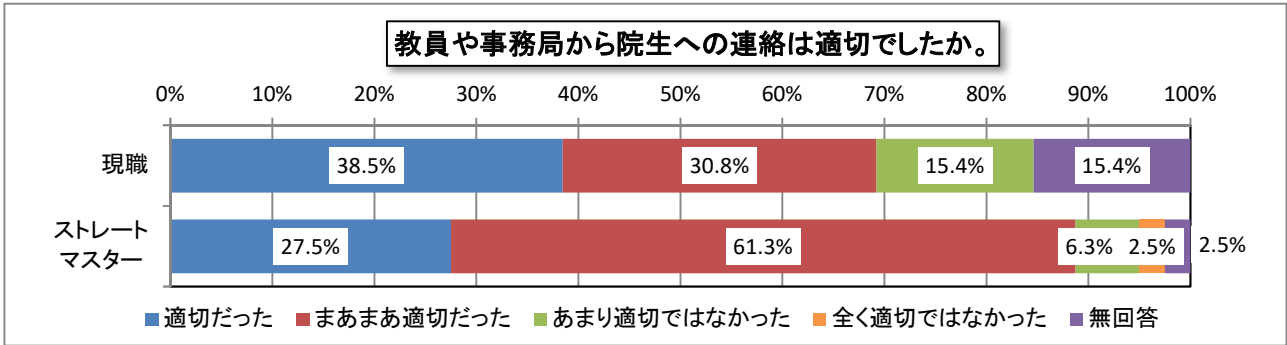


(14) 京大大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。(ストレートマスター対象)

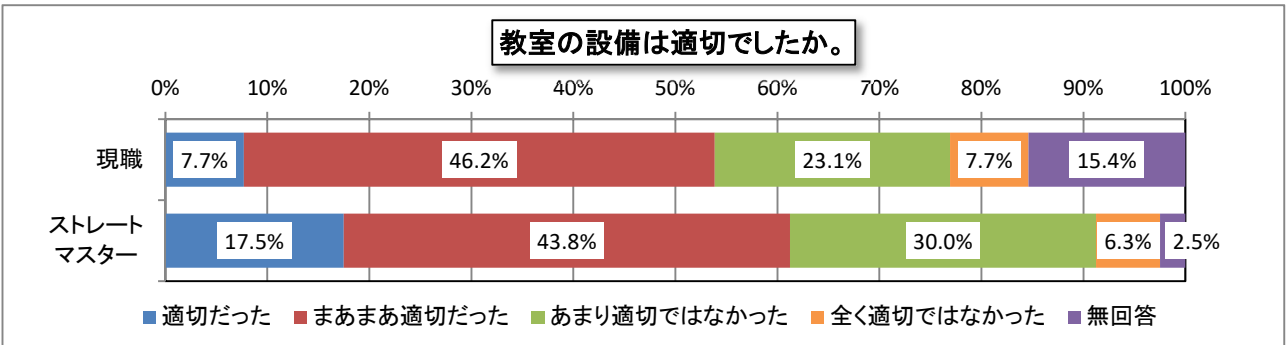


# 授業アンケート(平成30年度後期 現職・ストレートマスター別)

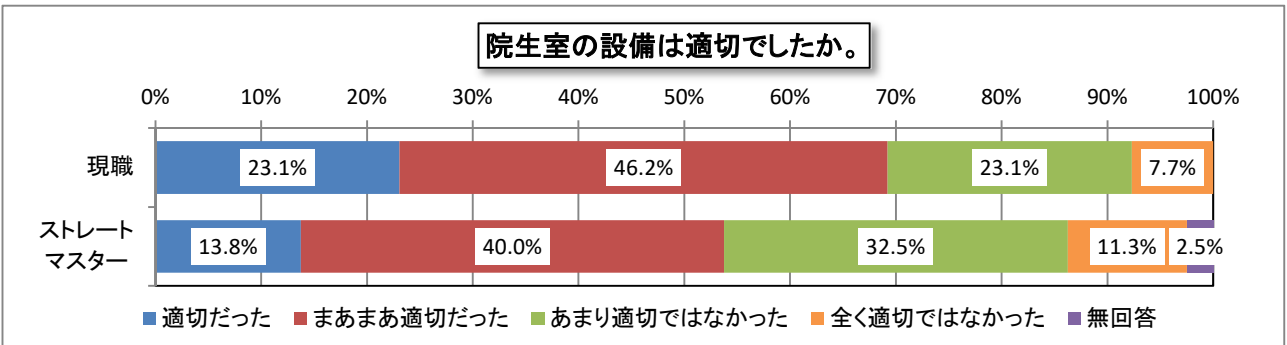
## (15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



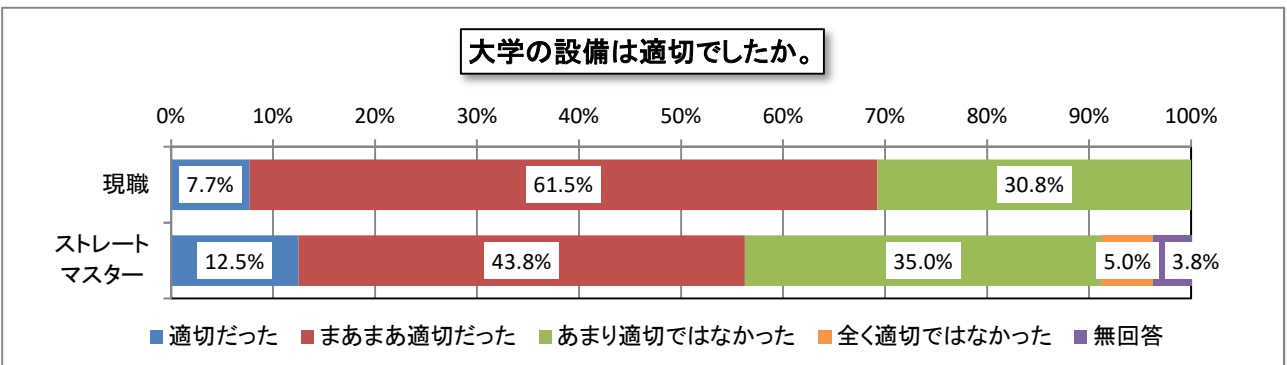
## (16-1) 教室の設備は適切でしたか。



## (16-2) 院生室の設備は適切でしたか。

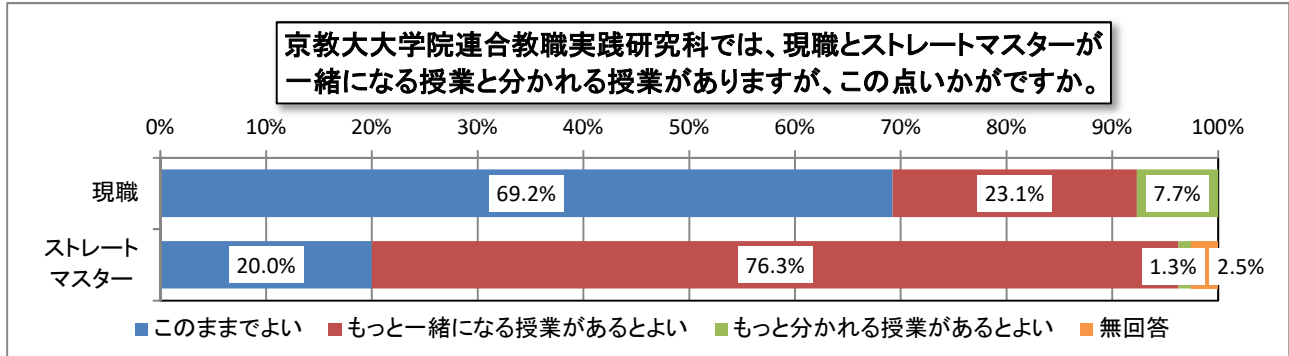


## (16-3) 大学の設備は適切でしたか。

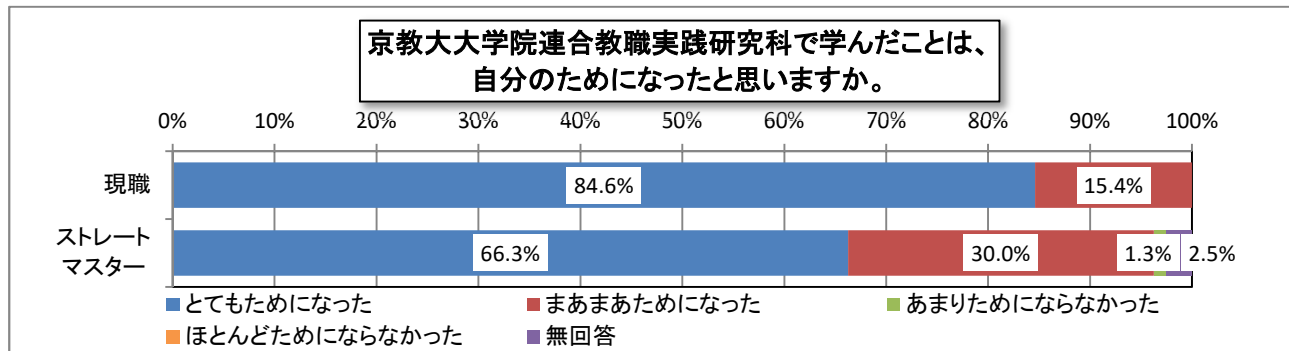


## 授業アンケート(平成30年度後期 現職・ストレートマスター別)

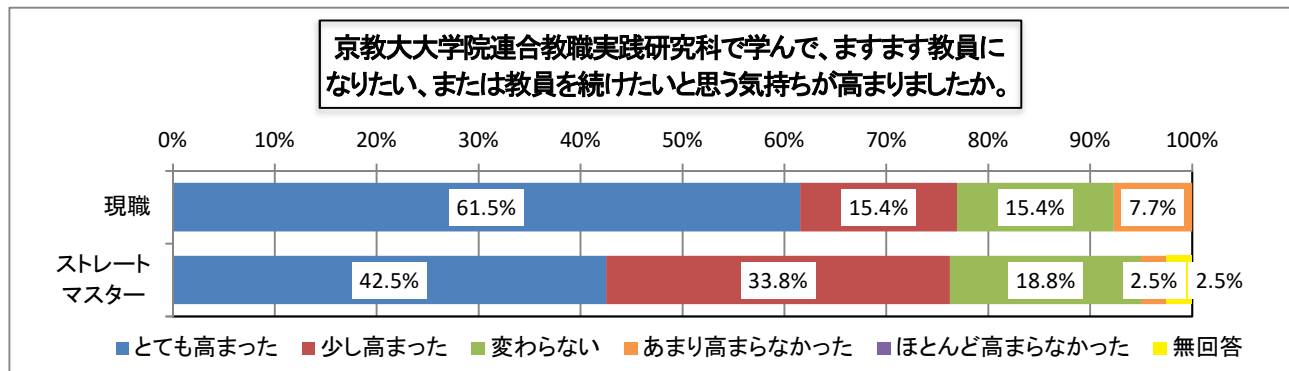
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。



(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

